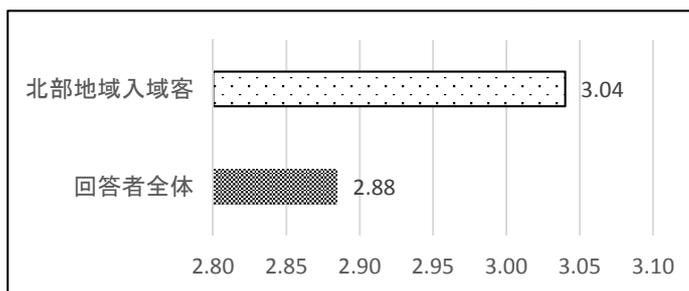


#### ④宿泊数

宿泊数	泊数
北部地域入域客	3.04
回答者全体	2.88

図 1-4 北部地域入域客の「宿泊数」



宿泊数に関する北部地域の入域観光客の特徴は、全体の 2.88 泊と比較して 3.04 泊となり、わずかにあるが北部地域入域客の泊数が多い結果となった。滞在型の宿泊施設が多い北部西海岸や離島地域を有することや、那覇空港からの距離などが影響していると考えられる。

#### ⑤旅行先選択の情報源

情報源	全体	北部
1: 以前訪問したことがある	39.1%	43.5%
2: 家族や友人知人等の紹介	21.5%	22.2%
3: TV や映画	3.4%	3.2%
4: 旅行会社の店員の勧め	1.8%	2.3%
5: 旅行会社のパンフレット	11.9%	13.6%
6: 旅行会社のウェブサイト	8.1%	8.9%
7: 旅行雑誌	10.7%	13.6%
8: 旅行雑誌以外の情報誌	2.1%	1.9%
9: ガイドブック	9.5%	11.2%
10: 自治体や観光協会のウェブサイト・SNS	5.3%	5.9%
11: 個人ブログ・インターネット掲示板・SNS	8.7%	9.2%
12: 自分の意志外	25.1%	21.2%
13: 特にない	3.0%	2.7%
14: その他	5.7%	5.4%
合計／複数回答	100%／4233	100%／2085

旅行先選択の情報源に関する北部地域の入域観光客の特徴は、「以前訪問したことがある」と「旅行雑誌」、「自分の意志外」の項目で僅かな差が見られた。その他の項目では、ほぼ同様の結果となった。

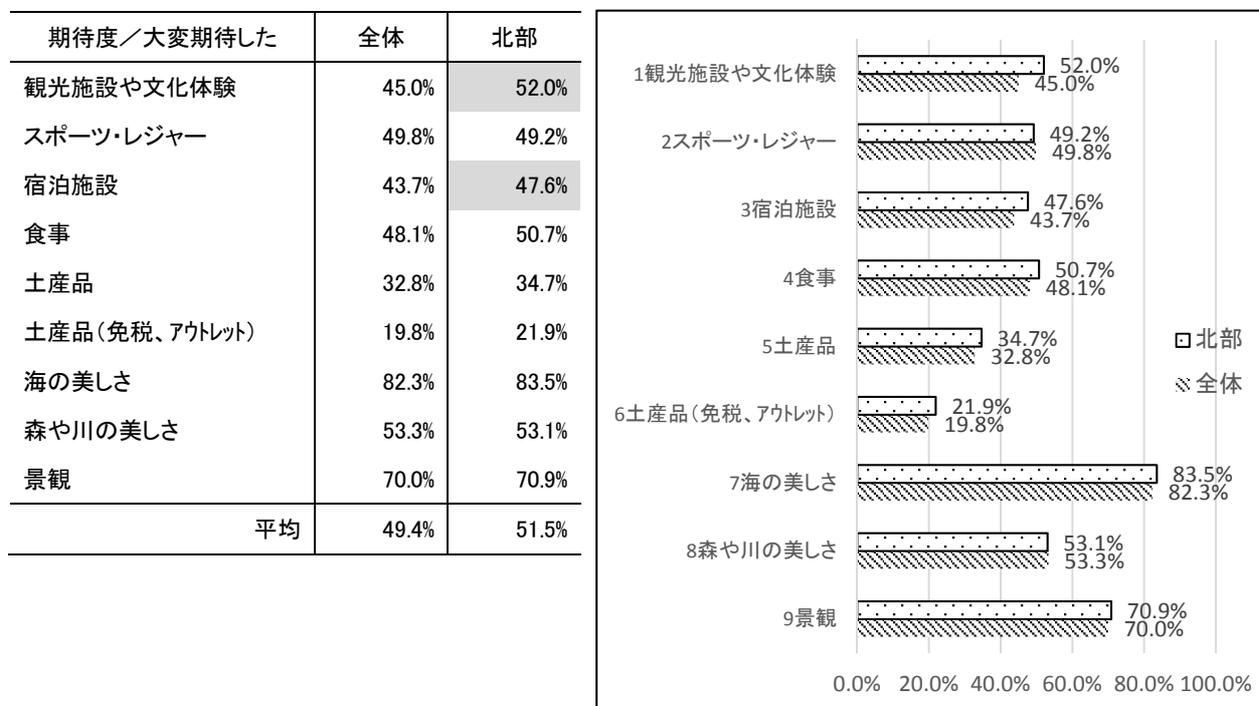
## ⑥同行者

同行者	全体	北部
1:1人で	20.4%	12.3%
2:夫婦で	18.2%	19.4%
3:子ども連れ家族で	17.5%	23.4%
4:三世代家族で	3.6%	5.5%
5:その他家族で	6.6%	6.9%
6:友人・知人と	13.0%	12.0%
7:恋人と	3.8%	4.2%
8:仕事仲間と	12.7%	12.1%
9:地域の団体・サークル	2.4%	1.9%
10:その他	1.8%	2.2%
合計	100.0%	100.0%

同行者に関する北部地域の入域観光客の特徴は、全体の結果と比較して「一人で」の割合が12.3%と低く、「子ども連れ家族で」が23.4%と高い結果となった。このファミリー層が多いという結果は、旅行先選択の情報源に関する北部地域の入域観光客の特徴であった「自分の意志外」と関連していることも考えられる。その他の項目では、ほぼ同様の結果となった。

## ⑦旅行前の期待度

図 1-5 北部地域入域客の「期待度」

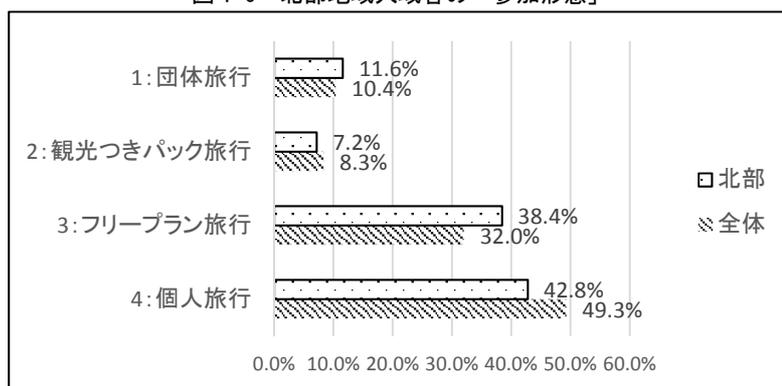


旅行前の期待度に関する北部地域の入域観光客の特徴は、全体の結果と比較して「観光施設や文化体験」と「宿泊施設」の割合がそれぞれ52.0%と47.6%という結果になった。

### ⑧参加形態

参加形態	全体	北部
1:団体旅行	10.4%	11.6%
2:観光つきパック旅行	8.3%	7.2%
3:フリープラン旅行	32.0%	38.4%
4:個人旅行	49.3%	42.8%
合計	100.0%	100.0%

図 1-6 北部地域入域客の「参加形態」



参加形態に関する北部地域の入域観光客の特徴は、全体結果と比較して「フリープラン旅行」の割合が38.4%と高く、「個人旅行」の割合が42.8%と低い結果となった。北部西海岸には宿泊施設が多く所在し、宿泊付きのフリープラン選択が多くなったと推測できる。

### ⑨活動内容

活動の内容	全体	北部
1: 観光地めぐり	56.0%	70.0%
2: 保養・休養	28.1%	29.9%
3: 海水浴・マリンスポーツ	26.9%	31.3%
4: ダイビング	7.7%	6.1%
5: ゴルフ	4.6%	4.8%
6: 釣り	1.7%	1.3%
7: スパ・エステ	3.5%	3.7%
8: スポーツ大会等	1.5%	1.2%
9: エコツアー	1.6%	1.4%
10: 伝統工芸・芸能体験	7.1%	8.9%
11: イベント・伝統行事	4.5%	3.9%
12: ショッピング	22.3%	26.8%
13: 沖縄料理を楽しむ	41.6%	47.5%
14: 戦跡地参拝	9.9%	14.0%
15: 新婚旅行	1.5%	2.3%
16: ウェディング	2.8%	3.3%
17: 会議・研修	6.1%	4.4%
18: 仕事	12.0%	7.1%
19: 帰省・親戚等訪問	4.7%	4.1%
20: 友人・知人の訪問	8.4%	8.1%
21: プロ野球キャンプ見学	3.8%	4.7%
22: その他	4.5%	4.1%
合計／複数回答	100%／4233	100%／2085

活動内容に関する北部地域の入域観光客の特徴は、全体結果と比較して「観光地めぐり」や「沖縄料理を楽しむ」などの割合が高くなった。北部での行動のみではなく、北部に行った人の特徴という意味であることに注意が必要であるが、活動の特性は一定の参考資料となるのではないだろうか。

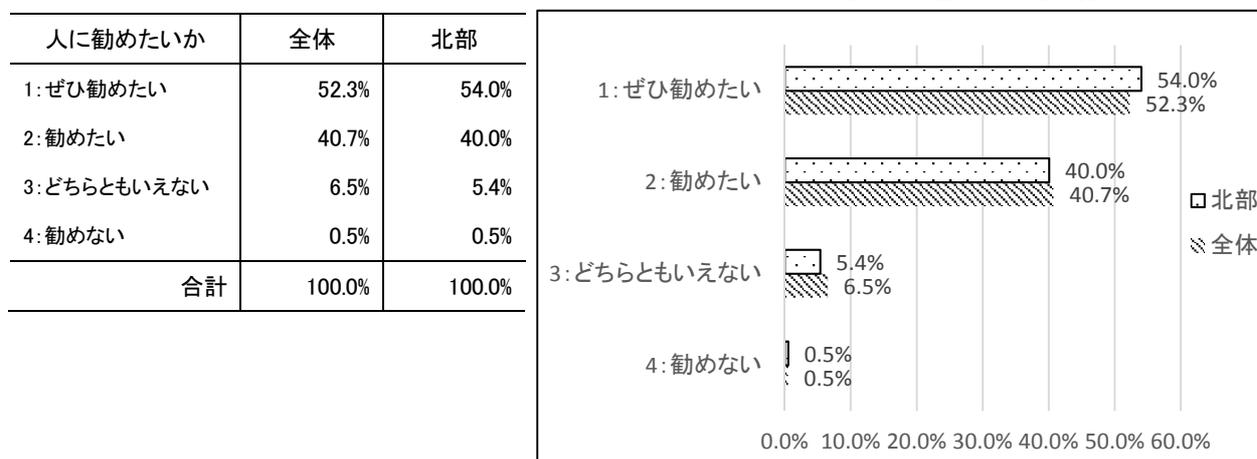
### ⑩利用した交通機関

交通機関	全体	北部
1:路線バス	25.1%	26.4%
2:観光バス	13.8%	13.5%
3:タクシー	2.2%	1.9%
4:モノレール	1.2%	1.4%
5:レンタカー	7.6%	8.2%
6:自家用車・公用車	5.2%	5.4%
7:航空機(県内)	6.9%	8.3%
8:船(県内)	1.3%	1.1%
9:自転車	6.1%	6.8%
10:その他	3.4%	3.6%
11:無回答	5.6%	5.6%
合計	78.3%	82.3%

利用した交通機関に関する北部地域の入域観光客の特徴は、全体と比較して同様の結果となった。この数値も北部での利用交通機関ではなく、北部に行った人の特徴という意味であることに注意が必要である。北部地域での利用交通機関については(2)の分析で示したい。

### ⑪お勧め度

図 1-6 北部地域入域客の「お勧め度」



「あなたは沖縄旅行を人にも勧めたいと思いますか」という質問に関する北部地域の入域観光客の特徴は全体結果と比較して差がなく、全体の調査結果とほぼ同じ割合となった。

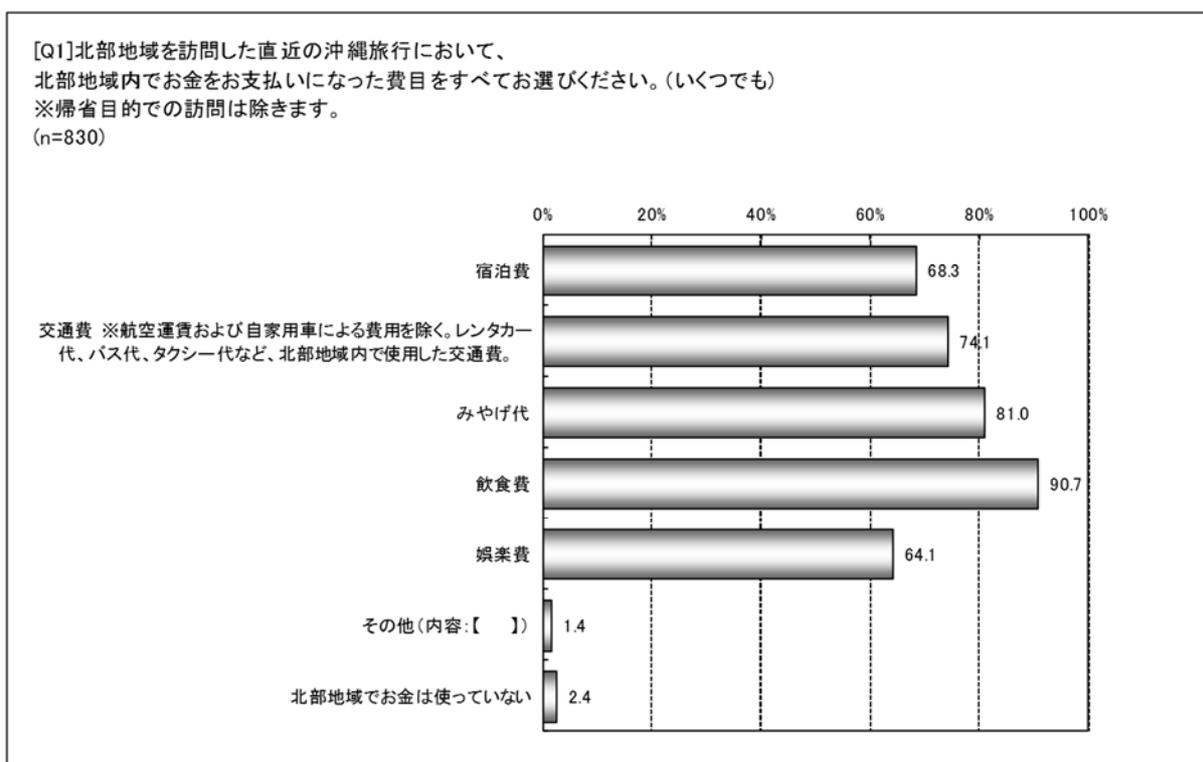
北部地域における観光の満足度や要望などについては、(3)の分析で示したい。

## (2)ウェブ調査による北部観光実態調査の結果分析

### ①支払費目

- ・ 経済効果の分析にあたり、WEB アンケート調査により「沖縄の北部地域内で支払った費目」を聞いたところ、最も多いのは「飲食費」の 90.7%であった。続いて「みやげ代」81.0%、「交通費」74.1%、「宿泊費」68.3%、「娯楽費」64.1%と続いている。
- ・ 北部地域内で「宿泊費」を支払った人は 68.3%であり、北部地域に訪れた人の 68.3%は宿泊していると考えられる。

Q：北部地域を訪問した直近の沖縄旅行において、北部地域内での支出金額（税抜き/大よそでも結構です）を費目ごとにお答えください。※1人あたりの金額でお答えください。※帰省目的での訪問は除きます。



支払った費目	N 値	(%)
宿泊費	567	68.3
交通費(※航空運賃および自家用車による費用を除く。レンタカー代、バス代、タクシー代など、北部地域内で使用した交通費)	615	74.1
みやげ代	672	81.0
飲食費	753	90.7
娯楽費	532	64.1
その他	12	1.4
北部地域でお金を使っていない	20	2.4
全体	830	100.0

## ②支出金額

- 「沖縄の北部地域内での支出額」を聞いたところ、平均で最も大きいのは「宿泊費」の41,143円であった。続いて「交通費」13,659円、「飲食費」10,737円、「娯楽費」9,288円、「みやげ代」8,400円であった。

Q：北部地域を訪問した直近の沖縄旅行において、北部地域内での支出金額（税抜き/大よそでも結構です）を費目ごとにお答えください。※1人あたりの金額でお答えください。※帰省目的での訪問は除きます。

	全体	平均	最小値	最大値
宿泊費	567	¥41,143	¥1	¥2,000,000
交通費	615	¥13,659	¥3	¥120,000
みやげ代	672	¥8,400	¥600	¥120,000
飲食費	753	¥10,737	¥150	¥100,000
娯楽費	532	¥9,288	¥1	¥100,000
その他	12	¥5,987	¥400	¥30,000

## ③宿泊数

- 「沖縄全体での宿泊数と北部地域での宿泊数」を聞いたところ、旅行全体の平均で3.22泊、このうち、北部での宿泊数は1.58泊という結果となった。

Q：北部地域を訪問した直近の沖縄旅行において、旅行全体の宿泊日数と北部地域での宿泊日数をお答えください。※帰省目的での訪問は除きます。

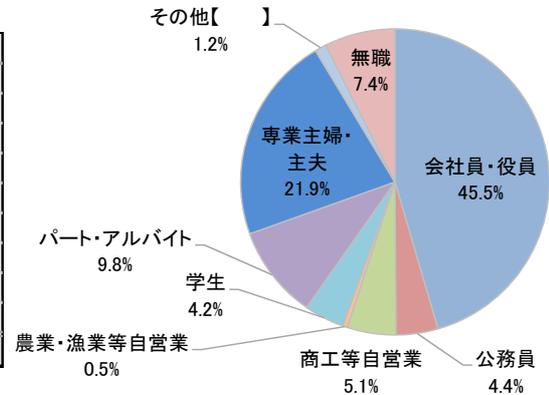
	全体	平均	最小値	最大値
旅行全体の宿泊日数	830	3.22	0	31
北部地域での宿泊日数	830	1.58	0	27

#### ④WEB 調査による「やんばる」の認知度調査

##### a. 基本属性 (N=825)

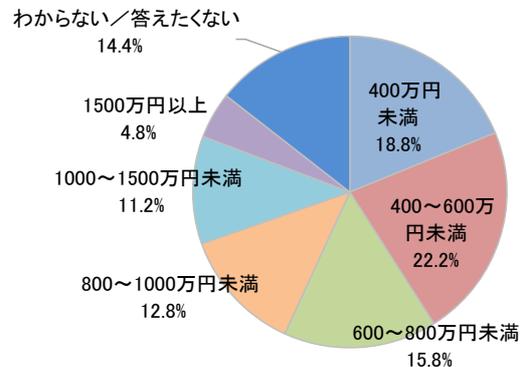
Q1：あなたの職業を、以下の中からお選び下さい。複数あてはまる方は、最もあてはまるものをひとつお選び下さい。

単一回答	N	%
1 会社員・役員	375	45.5
2 公務員	36	4.4
3 商工等自営業	42	5.1
4 農業・漁業等自営業	4	0.5
5 学生	35	4.2
6 パート・アルバイト	81	9.8
7 専業主婦・主夫	181	21.9
8 その他【 】	10	1.2
9 無職	61	7.4
全体	825	100.0



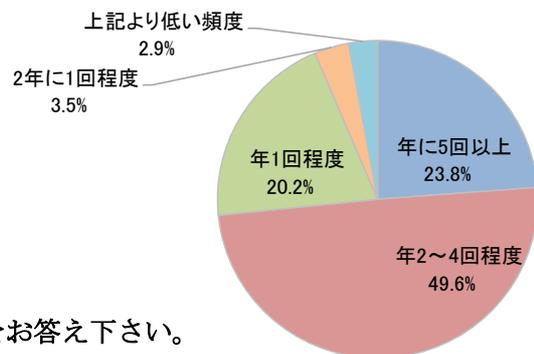
Q2：あなたの世帯年収をお選び下さい。※あなただけの年収ではなく、世帯全体での年収（年金等を含む）をお選び下さい。

単一回答	N	%
1 400万円未満	155	18.8
2 400～600万円未満	183	22.2
3 600～800万円未満	130	15.8
4 800～1000万円未満	106	12.8
5 1000～1500万円未満	92	11.2
6 1500万円以上	40	4.8
7 わからない／答えたくない	119	14.4
全体	825	100.0



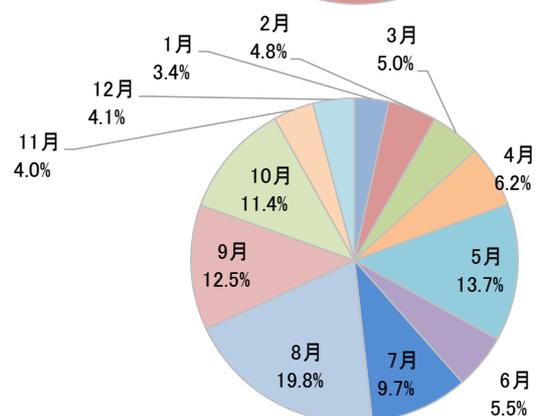
Q3:あなたは、どのくらいの頻度で旅行に行きますか。以下の中からもっともあてはまる頻度をお答え下さい。

単一回答	N	%
1 年に5回以上	196	23.8
2 年2～4回程度	409	49.6
3 年1回程度	167	20.2
4 2年に1回程度	29	3.5
5 上記より低い頻度	24	2.9
全体	825	100.0



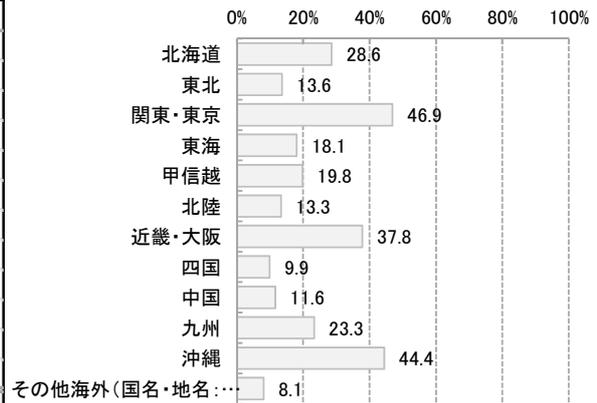
Q4：旅行する時期は何月が多いですか。最も多い月をお答え下さい。

単一回答	N	%
1 1月	28	3.4
2 2月	40	4.8
3 3月	41	5.0
4 4月	51	6.2
5 5月	113	13.7
6 6月	45	5.5
7 7月	80	9.7
8 8月	163	19.8
9 9月	103	12.5
10 10月	94	11.4
11 11月	33	4.0
12 12月	34	4.1
全体	825	100.0



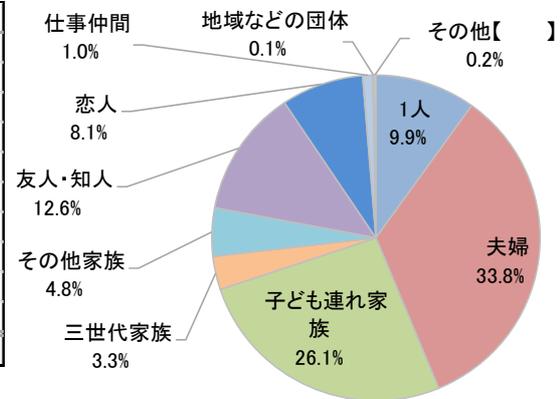
Q5：あなたが、よく旅行するエリアはどこですか。あてはまるものを全てお選びください。

複数回答	N	%
1 北海道	236	28.6
2 東北	112	13.6
3 関東・東京	387	46.9
4 東海	149	18.1
5 甲信越	163	19.8
6 北陸	110	13.3
7 近畿・大阪	312	37.8
8 四国	82	9.9
9 中国	96	11.6
10 九州	192	23.3
11 沖縄	366	44.4
12 その他海外(国名・地名：【 】)	67	8.1
全体	825	100.0



Q6：旅行には、どなたと一緒にいくことが多いですか。最もあてはまるものをひとつお選び下さい。(ひとつだけ)

単一回答	N	%
1 1人	82	9.9
2 夫婦	279	33.8
3 子ども連れ家族	215	26.1
4 三世代家族	27	3.3
5 その他家族	40	4.8
6 友人・知人	104	12.6
7 恋人	67	8.1
8 仕事仲間	8	1.0
9 地域などの団体	1	0.1
10 その他【 】	2	0.2
全体	825	100.0

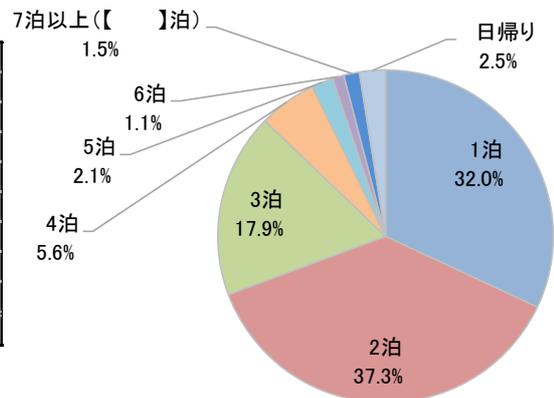


10. その他

ツアー会社のツアー旅行

Q7：何泊のご旅行が多いですか。(ひとつだけ)

単一回答	N	%
1 1泊	264	32.0
2 2泊	308	37.3
3 3泊	148	17.9
4 4泊	46	5.6
5 5泊	17	2.1
6 6泊	9	1.1
7 7泊以上(【 】泊)	12	1.5
8 日帰り	21	2.5
全体	825	100.0

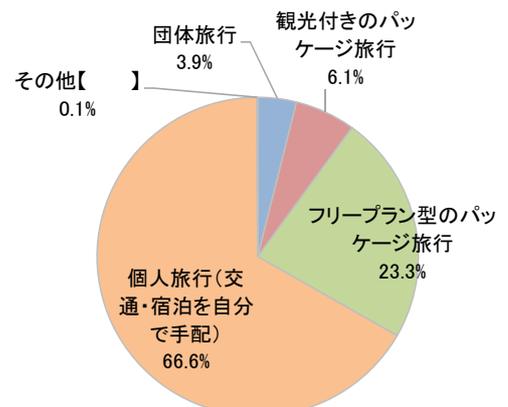


7. 7泊以上(【 】泊)

7/8/9/10/12/14/15/40泊

Q8：あなたが、よく利用されるご旅行の形態をお聞かせください。(ひとつだけ)

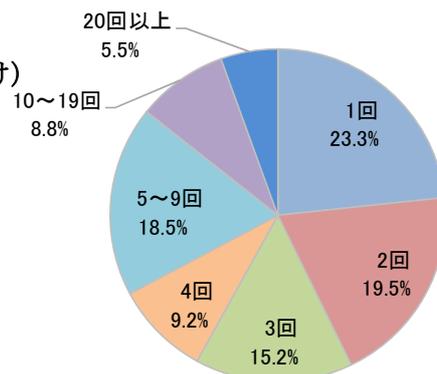
単一回答	N	%
1 団体旅行	32	3.9
2 観光付きのパッケージ旅行	50	6.1
3 フリープラン型のパッケージ	192	23.3
4 個人旅行(交通・宿泊を自分で手配)	550	66.7
5 その他【 】	1	0.1
全体	825	100.0



b. 北部地域における詳細な観光実態 (N=825)

Q9: 今までに沖縄を訪問したことは何度ありますか。(ひとつだけ)

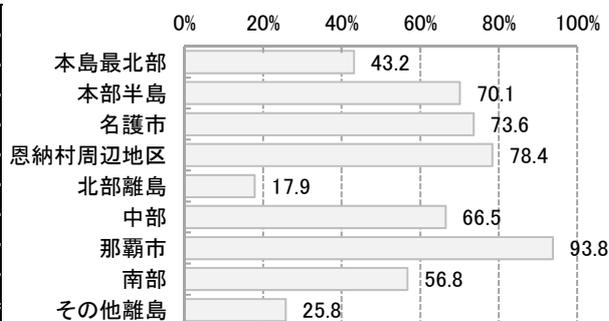
	単一回答	N	%
1	1回	192	23.3
2	2回	161	19.5
3	3回	125	15.2
4	4回	76	9.2
5	5~9回	153	18.5
6	10~19回	73	8.8
7	20回以上	45	5.5
	全体	825	100.0



- ・ 沖縄を訪問した回数は「1回」が最も多く、次いで「2回」「5~9回」「3回」となっている。
- ・ 訪問回数が2回以上と回答した方は全体の約8割いることから、沖縄旅行のリピート率が高いことがわかる。

Q10: あなたが、沖縄旅行で訪れたことのある地域を、上の図をもとにお答えください。(いくつでも) なお通過しただけの地域はのぞいてください。

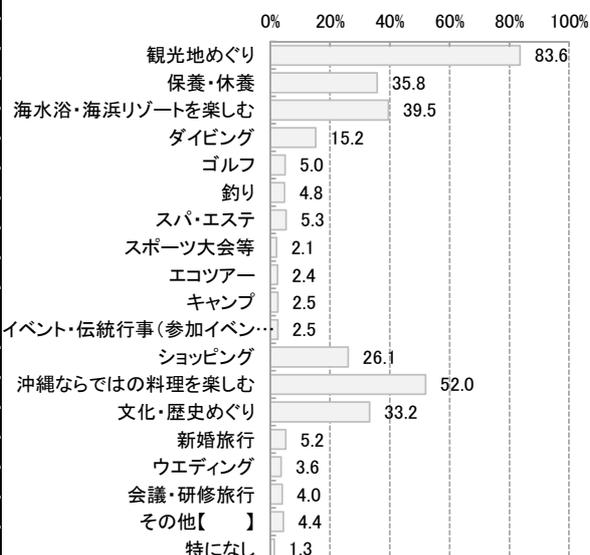
	複数回答	N	%
1	本島最北部	356	43.2
2	本部半島	578	70.1
3	名護市	607	73.6
4	恩納村周辺地区	647	78.4
5	北部離島	148	17.9
6	中部	549	66.5
7	那覇市	774	93.8
8	南部	469	56.8
9	その他離島	213	25.8
	全体	825	100.0



- ・ 沖縄旅行で訪れたことのある地域は、「那覇市」が最も多い。
- ・ 「那覇市」に次いで「恩納村周辺」「名護市」「本部半島」となっていることから、沖縄北部地域に訪れたことのある人が多いことがわかる。

Q11: あなたが、直近で沖縄へ旅行に行った際の、目的をお聞かせください。あてはまる目的をすべてお答えください。

	複数回答	N	%
1	観光地めぐり	690	83.6
2	保養・休養	295	35.8
3	海水浴・海浜リゾートを楽しむ	326	39.5
4	ダイビング	125	15.2
5	ゴルフ	41	5.0
6	釣り	40	4.8
7	スパ・エステ	44	5.3
8	スポーツ大会等	17	2.1
9	エコツアー	20	2.4
10	キャンプ	21	2.5
11	イベント・伝統行事(参加イベント・行事等:【 】)	21	2.5
12	ショッピング	215	26.1
13	沖縄ならではの料理を楽しむ	429	52.0
14	文化・歴史めぐり	274	33.2
15	新婚旅行	43	5.2
16	ウエディング	30	3.6
17	会議・研修旅行	33	4.0
18	その他【 】	36	4.4
19	特になし	11	1.3
	全体	825	100.0



11. イベント・伝統行事（参加イベント【】）

ライブ・各種フェス・コンサート／琉球海炎祭／修学旅行／旅行会社の芸能イベント／ンマハラシー／ハーリー／エイサー／那覇大綱引き／琉球舞踊の公演／ホエールウォッチング

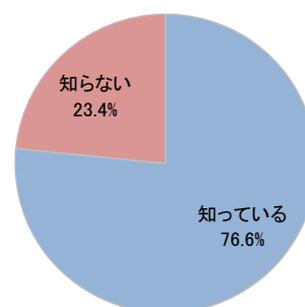
18. その他

仕事／友人訪問／ホテルや旅館を楽しむ／パワースポット／平和学習／修学旅行／子どもに会いに／親戚訪問／プロ野球キャンプ／シーサーづくり／還暦祝い／同期会／囲碁交流／食べ歩き／ドライブ／演奏者としてライブに参加／家族旅行／シュノーケリング／貝殻拾い／自然観察／写真撮影／コンサート／定期的に行きたくなる／何もしない

- ・ 沖縄旅行最大の目的は「観光地めぐり」で、次いで「沖縄ならではの料理を楽しむ」「海水浴・リゾートを楽しむ」「保養・休養」「文化・歴史めぐり」「ショッピング」が上位を連ねている。
- ・ ほとんどの方が行楽目的で沖縄を訪れていることがわかる。

Q12：「やんばる」という地域名称をご存知ですか？

単一回答	N	%
1 知っている	632	76.6
2 知らない	193	23.4
全体	825	100.0



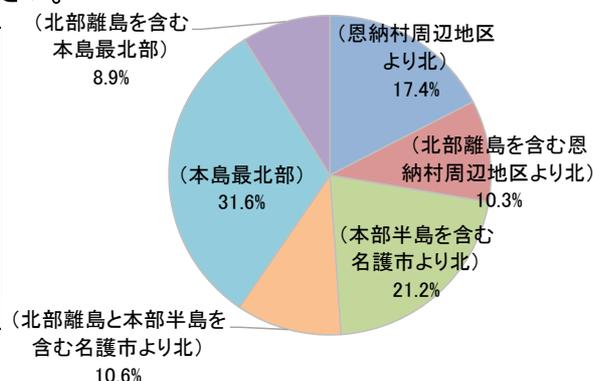
- ・ 沖縄を訪れたことがある方のほとんどが、「やんばる」という地名を知っていることがわかる。

※Q13：やんばるという地域名称を「1.知っている」と答えた方にお尋ねします。どのような情報源から知りましたか？例：テレビの旅行番組など（自由回答）

テレビ／インターネット・Web・SNS等／ブログ／ラジオ／新聞／書籍・書物／ガイドブック・旅行雑誌・パンフレット等／地図／ポスター／現地・旅行先で／旅行会社の情報／家族・友人・知人から／ガイドさん・添乗員から／現地の人から／タレント／歌／看板等／ヤンバルクイナ／学校の授業・教科書／漫画／ツアー／地方公共団体・観光協会／歴史資料／体験記／甲子園／やんばるポーク／常識として／なんとなく聞いたことがある／自然に知っていた／オスプレイ基地ができる／カヌー／マングローブ／住んでいた／昔から知っていた

Q14：「1.知っている」と答えた方にお尋ねします。「やんばる」を指す地域はどの範囲とお考えですか？もっともあてはまると思うものをお答えください。

単一回答	N	%
1 (恩納村周辺地区より北)	110	17.4
2 (北部離島を含む恩納村周辺地区より北)	65	10.3
3 (本部半島を含む名護市より北)	134	21.2
4 (北部離島と本部半島を含む名護市より北)	67	10.6
5 (本島最北部)	200	31.6
6 (北部離島を含む本島最北部)	56	8.9
全体	632	100.0



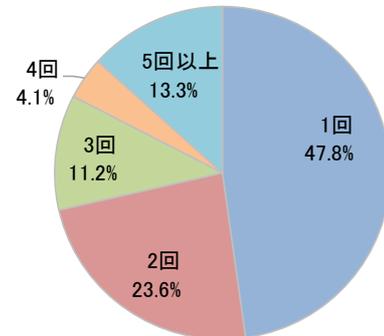
- ・ 「やんばる」という地名を知っている方の31.6%が、「本島最北部」を指していると考えおり、最も高い数値となっている。

- 「やんばる」という地名を知っている方で、その範囲を正確にわかっている人は全体の10.3%だった。

**Q15：沖縄県北部地域を何回訪問したことがありますか。(ひとつだけ)**

※本アンケートでは、北部地域とは、画像の～の地域を言います。(名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村)

	単一回答	N	%
1	1回	394	47.8
2	2回	195	23.6
3	3回	92	11.2
4	4回	34	4.1
5	5回以上	110	13.3
	全体	825	100.0



- 沖縄北部地域を訪れたことのある人の約半数は47.8%で、2回以上訪れたことのある人がわずかに多いことがわかる。
- 「5回以上」訪れたことのある人は13.3%と、「3回」「4回」訪れたことのある人よりも多い結果となった。

Q16：北部地域の観光のことについて、お伺いします。以下の項目で、ご存知のものを全てお答えください。

複数回答	N	%	
1 【恩納村】万座毛	617	74.8	【恩納村】万座毛 74.8
2 【恩納村】農水産物販売センター「おんなの駅なかゆくい市場」	172	20.8	【恩納村】農水産物販売セン… 20.8
3 【金武町】ネイチャーみらい館/億首川プロムナード	53	6.4	【金武町】ネイチャーみらい… 6.4
4 【金武町】新開地(金武町市街地)	58	7.0	【金武町】新開地(金武町市… 7.0
5 【宜野座村】松田鍾乳洞	82	9.9	【宜野座村】松田鍾乳洞 9.9
6 【宜野座村】道の駅ぎのざ	118	14.3	【宜野座村】道の駅ぎのざ 14.3
7 【名護市】「道の駅」許田やんばる物産センター	266	32.2	【名護市】「道の駅」許田やん… 32.2
8 【名護市】わんさか大浦パーク(名護市二見以北地域交流拠点施設)	56	6.8	【名護市】わんさか大浦パー… 6.8
9 【名護市/今帰仁村】屋我地島/ワルミ大橋	164	19.9	【名護市/今帰仁村】屋我地… 19.9
10 【今帰仁村】今帰仁の駅「そーれ」	105	12.7	【今帰仁村】今帰仁の駅… 12.7
11 【今帰仁村】橋の駅「リリカ ワルミ」	48	5.8	【今帰仁村】橋の駅「リリカ… 5.8
12 【本部町】円錐カルスト	46	5.6	【本部町】円錐カルスト 5.6
13 【本部町】瀬底島	177	21.5	【本部町】瀬底島 21.5
14 【本部町】やんばる海の駅	147	17.8	【本部町】やんばる海の駅 17.8
15 【大宜味村】芭蕉布会館	40	4.8	【大宜味村】芭蕉布会館 4.8
16 【大宜味村】道の駅おおぎみ	110	13.3	【大宜味村】道の駅おおぎみ 13.3
17 【東村】慶佐次川/東村ふれあいヒルギ公園/慶佐次のマングローブ林	76	9.2	【東村】慶佐次川/東村ふれ… 9.2
18 【東村】東村特産品加工直売所「サンライズひがし」	36	4.4	【東村】東村特産品加工直売… 4.4
19 【国頭村】やんばる学びの森	119	14.4	【東村】やんばる学びの森 14.4
20 【国頭村】ヤンバルクイナ生態展示学習施設	111	13.5	【国頭村】ヤンバルクイナ生… 13.5
21 【国頭村】道の駅ゆいゆい国頭	100	12.1	【国頭村】道の駅ゆいゆい国頭 12.1
22 【伊江村】ゆり祭り	33	4.0	【伊江村】ゆり祭り 4.0
23 【伊江村】伊江島タッチュー	59	7.2	【伊江村】伊江島タッチュー 7.2
24 【伊江村】伊江島物産センター	73	8.8	【伊江村】伊江島物産センター 8.8
25 【伊是名村】伊是名城跡、尚円王(金丸)の像 →統合	46	5.6	【伊是名村】伊是名城跡、尚… 5.6
26 【伊是名村】銘苅家住宅(琉球王国の関連、国指定重要文化財)	41	5.0	【伊是名村】銘苅家住宅(琉… 5.0
27 【伊是名村】伊是名村観光物産センター(しまぬ売店)	29	3.5	【伊是名村】伊是名村観光物… 3.5
28 【伊平屋村】クマヤ洞窟(「天の岩戸伝説」最南端地ともいわれる聖地)	53	6.4	【伊平屋村】クマヤ洞窟(「天… 6.4
29 【伊平屋村】ムーンライトマラソン	28	3.4	【伊平屋村】ムーンライトマ… 3.4
30 【伊平屋村】伊平屋村ぎよぎょう直売店	23	2.8	【伊平屋村】伊平屋村ぎよ… 2.8
31 【その他】北部地域の一部が国立公園に指定され、世界遺産登録を目指していること	69	8.4	【その他】北部地域の一部が… 8.4
32 この中に知っているものはない	112	13.6	この中に知っているものはない 13.6
全体	825	100.0	

- 北部地域の観光について、最も高いものは「【恩納村】万座毛」の74.8%だった。選択肢の中に美ら海水族館が入っていないことから、このような結果になったと考えられる。
- 2番目に知られているのは「【名護市】「道の駅」許田やんばる物産センター」の32.2%、3番目に「【本部町】瀬底島」の21.5%、4番目に「【恩納村】農水産物販売センター「おんなの駅なかゆくい市場」となった。

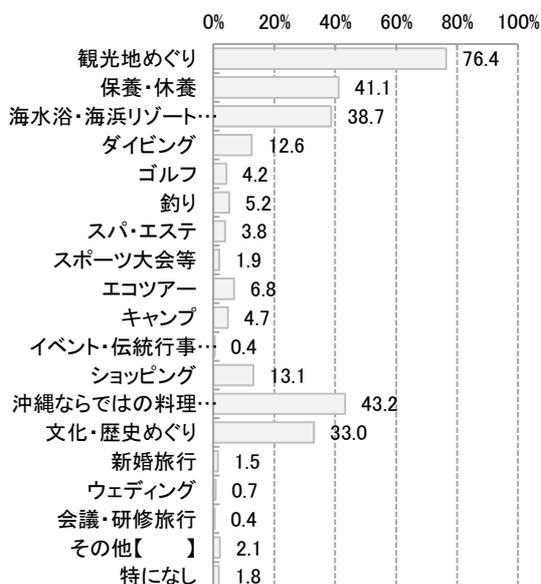
Q17：北部地域の観光のことに、お伺いします。以下の項目で、ご関心のあるものをすべてお答えください。※お気持ちに近いものを、必ず1つ以上お選びください。



- 最も関心の高いものは「【恩納村】万座毛」の56.5%だった。
- 2番目に高いものは「【伊平屋村】クマヤ洞窟」の23.3%、3番目に高いものは「【宜野座村】松田鍾乳洞」の22.7%だった。
- 知名度は低い、関心度の高い観光地が多くあることがわかった。

Q18：今後、もし北部地域を訪れるのであれば、どのようなことを目的に訪れたいですか。あてはまる目的をすべてお答えください。※これまでにおこなった、参加したことがあるものについては、もう一度体験してみたいものもあわせてお答えください。

複数回答	N	%
1 観光地めぐり	630	76.4
2 保養・休養	339	41.1
3 海水浴・海浜リゾートを楽しむ	319	38.7
4 ダイビング	104	12.6
5 ゴルフ	35	4.2
6 釣り	43	5.2
7 スパ・エステ	31	3.8
8 スポーツ大会等	16	1.9
9 エコツアー	56	6.8
10 キャンプ	39	4.7
11 イベント・伝統行事(参加イベント・行事等:【 】)	3	0.4
12 ショッピング	108	13.1
13 沖縄ならではの料理を楽しむ	356	43.2
14 文化・歴史めぐり	272	33.0
15 新婚旅行	12	1.5
16 ウェディング	6	0.7
17 会議・研修旅行	3	0.4
18 その他【 】	17	2.1
19 特になし	15	1.8
全体	825	100.0



11. イベント・伝統行事（参加イベント・伝統行事【】）

ムーンライトマラソン／地元のお祭り／エイサーまつり

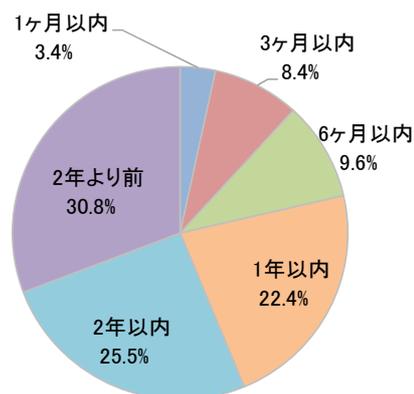
18. その他【】

友人訪問／聖地めぐり／プロ野球キャンプ／シーサーづくり／自然を楽しむ／沖縄の民謡・踊りをライブで楽しみたい／基地反対運動の現状／沖縄らしい場所／食歩歩き／シュノーケル／ヤンバルクイナのキョンキョンに会いに行く／ドライブ／生物観察／貝殻拾い／写真撮影／カフェ／カヤック／なにもしない

- ・ 北部地域を訪れる目的として最も高かったのは、「観光地めぐり」の76.4%だった。
- ・ 次いで「沖縄ならではの料理を楽しむ」43.2%、「保養・休養」41.1%、「海水浴・リゾートを楽しむ」38.7%、「文化・歴史めぐり」33.0%となった。
- ・ Q12より、北部地域は沖縄旅行と違い「ショッピング」目的で訪れる方が少ないことがわかる。

Q19：最近では、どのくらい前に北部地域を訪れましたか。（ひとつだけ）

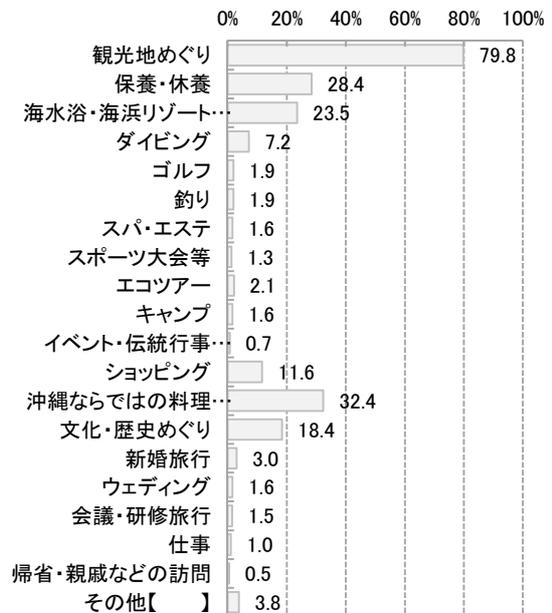
単一回答	N	%
1 1ヶ月以内	28	3.4
2 3ヶ月以内	69	8.4
3 6ヶ月以内	79	9.6
4 1年以内	185	22.4
5 2年以内	210	25.5
6 2年より前	254	30.8
全体	825	100.0



- 直近で北部地域を訪れた方で、最も高かったのは「2年より前」の30.8%、次いで「2年以内」の25.5%と、「2年より前」「2年以内」で約半数を占めていた。
- 1年以内に訪れた方のうち、半年以内に訪れたことのある方は全体の21.4%という結果となった。

Q20：直近で北部地域を訪れた際の、北部地域内における活動内容を選んでください。あてはまる目的をすべてお答えください。

複数回答	N	%
1 観光地めぐり	658	79.8
2 保養・休養	234	28.4
3 海水浴・海浜リゾートを楽しむ	194	23.5
4 ダイビング	59	7.2
5 ゴルフ	16	1.9
6 釣り	16	1.9
7 スパ・エステ	13	1.6
8 スポーツ大会等	11	1.3
9 エコツアー	17	2.1
10 キャンプ	13	1.6
11 イベント・伝統行事(参加イベント・行事等:【 】)	6	0.7
12 ショッピング	96	11.6
13 沖縄ならではの料理を楽しむ	267	32.4
14 文化・歴史めぐり	152	18.4
15 新婚旅行	25	3.0
16 ウェディング	13	1.6
17 会議・研修旅行	12	1.5
18 仕事	8	1.0
19 帰省・親戚などの訪問	4	0.5
20 その他【 】	31	3.8
全体	825	100.0



11. イベント・伝統行事（参加イベント・伝統行事：【】）

本部桜祭り／会社のイベント／ライブ／野球キャンプ観戦／琉球グラスづくり／修学旅行

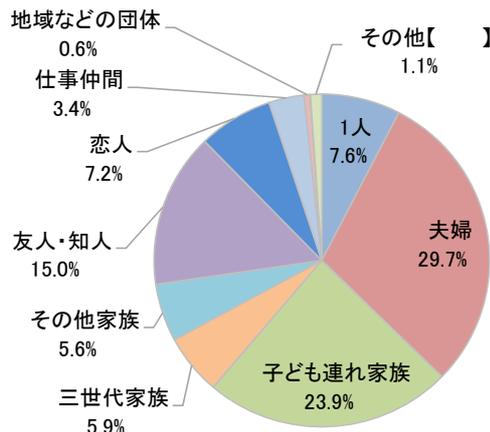
18. その他【】

ドライブ／最北端に行ってみたかった／友人訪問／プロ野球キャンプ／シーサーづくり／ドライブ／辺野古新基地反対座り込み／食べ歩き／家族旅行／シュノーケリング／ヤンバルクイナ生態展示学習施設キョンキョンに会うため／自然観察／写真撮影／コンサート／ホテルが恩納だったから

- 直近で北部地域を訪れた目的として最も高いのは「観光地めぐり」の79.8%で、次いで「沖縄ならではの料理を楽しむ」の32.4%、「保養・休養」の28.4%、「海水浴・海浜リゾートを楽しむ」の23.5%となった。
- 北部地域は、観光地としての魅力が高いことがわかる。

Q21：直近で北部地域を訪れた際は、どなたとご一緒でしたか。あてはまるものをひとつだけお選びください。

	単一回答	N	%
1	1人	63	7.6
2	夫婦	245	29.7
3	子ども連れ家族	197	23.9
4	三世代家族	49	5.9
5	その他家族	46	5.6
6	友人・知人	124	15.0
7	恋人	59	7.2
8	仕事仲間	28	3.4
9	地域などの団体	5	0.6
10	その他【 】	9	1.1
	全体	825	100.0



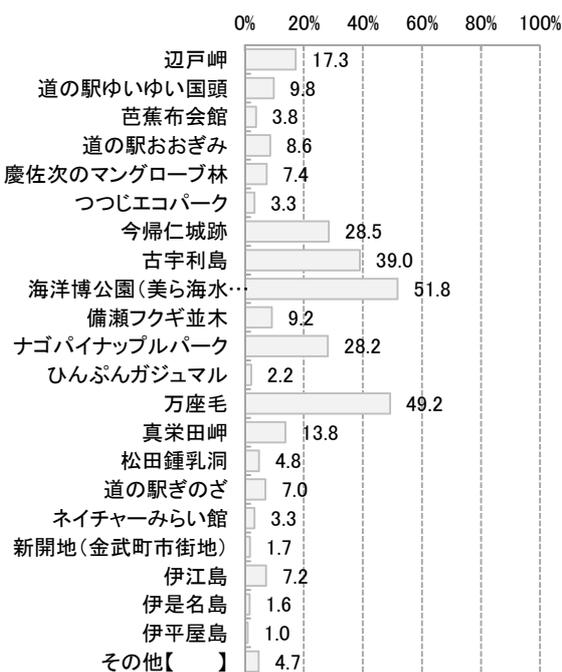
#### 10. その他

社内旅行／二世代家族／ツアー旅行の人たち

- 北部地域を訪れた際に一緒だった人で最も多かったのは「夫婦」の29.7%で、次いで「子ども連れ家族」の23.9%、「友人・知人」の15.0%という結果となった。
- 「家族」で訪れている割合は、全体の65.1%と半数を超える結果となった。

Q22：直近で北部地域を訪れた際は、どこに立ち寄りましたか。（回答はいくつでも）

	複数回答	N	%
1	辺戸岬	143	17.3
2	道の駅ゆいゆい国頭	81	9.8
3	芭蕉布会館	31	3.8
4	道の駅おおぎみ	71	8.6
5	慶佐次のマングローブ林	61	7.4
6	つつじエコパーク	27	3.3
7	今帰仁城跡	235	28.5
8	古宇利島	322	39.0
9	海洋博公園(美ら海水族館含む)	427	51.8
10	備瀬フクギ並木	76	9.2
11	ナゴパイナップルパーク	233	28.2
12	ひんぷんガジュマル	18	2.2
13	万座毛	406	49.2
14	真栄田岬	114	13.8
15	松田鍾乳洞	40	4.8
16	道の駅ぎのざ	58	7.0
17	ネイチャーみらい館	27	3.3
18	新開地(金武町市街地)	14	1.7
19	伊江島	59	7.2
20	伊是名島	13	1.6
21	伊平屋島	8	1.0
22	その他【 】	39	4.7
	全体	825	100.0



#### 22. その他

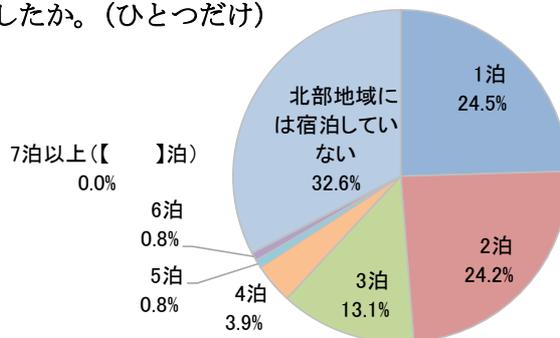
道の駅許田／瀬底島／海／おんなの駅／琉球村／宿泊ホテルのそばのビーチ／御菓子御殿／青の洞窟／名護市街／比地大滝／ダイビング／リゾートホテル／名護球場／カフェ／名護城跡／滝／岸本食堂／備瀬のワルミ／オリオンビール工場

- 直近で北部地域を訪れた方が最も多く立ち寄ったのは「美ら海水族館」の51.8%、次いで「万座毛」の49.2%で、約半数の方がこの2箇所を訪れているという結果となった。

- そのほか、「古宇利島」39.0%、「今帰仁城跡」28.5%、「ナゴパイナップルパーク」28.2%、「辺戸岬」17.3%、「真栄田岬」13.8%と、10%以上の方がこれらの場所に訪れていることがわかった。

**Q23：直近で北部を訪れた際は、北部地域に何泊しましたか。(ひとつだけ)**

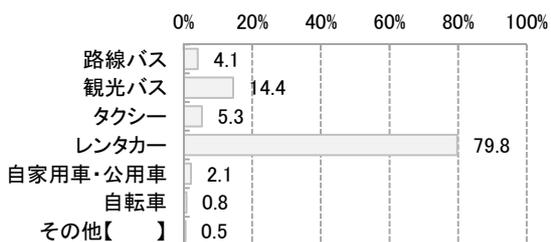
単一回答	N	%
1 1泊	202	24.5
2 2泊	200	24.2
3 3泊	108	13.1
4 4泊	32	3.9
5 5泊	7	0.8
6 6泊	7	0.8
7 7泊以上(【 】泊)	0	0.0
8 北部地域には宿泊していない	269	32.6
全体	825	100.0



- 北部地域を訪れた方の32.6%は、北部地域に宿泊していなかった。
- 北部地域を訪れた方で北部に宿泊した方は、「1泊」が24.5%、「2泊」が24.2%と、1～2泊滞在する方が全体の約半数いることがわかった。
- 3泊以上滞在する方は、全体の18.6%であった。

**Q24：直近で北部地域を訪れた際、北部地域内で利用した交通機関は何ですか。(いくつでも)**

複数回答	N	%
1 路線バス	34	4.1
2 観光バス	119	14.4
3 タクシー	44	5.3
4 レンタカー	658	79.8
5 自家用車・公用車	17	2.1
6 自転車	7	0.8
7 その他【 】	4	0.5
全体	825	100.0



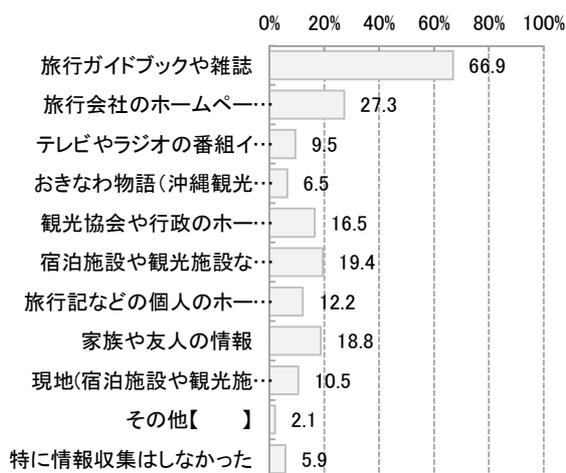
7. その他

連絡船／バスチャーター

- 直近で北部地域を訪れた際に最も多く使われた交通機関は、「レンタカー」の79.8%と全体の約8割となった。
- その次に「観光バス」14.4%、「路線バス」4.1%と、バスの利用が18.5%となった。

Q25：直近で北部地域を訪れた際、北部地域内の観光施設等の情報については、何でお知りになりましたか。(いくつでも)

複数回答	N	%
1 旅行ガイドブックや雑誌	552	66.9
2 旅行会社のホームページ・パンフレットや窓口	225	27.3
3 テレビやラジオの番組インターネット	78	9.5
4 おきなわ物語(沖縄観光コンベンションビューローのHP)	54	6.5
5 観光協会や行政のホームページ	136	16.5
6 宿泊施設や観光施設などのホームページ	160	19.4
7 旅行記などの個人のホームページ・ブログ	101	12.2
8 家族や友人の情報	155	18.8
9 現地(宿泊施設や観光施設など)	87	10.5
10 その他【 】	17	2.1
11 特に情報収集はしなかった	49	5.9
全体	825	100.0



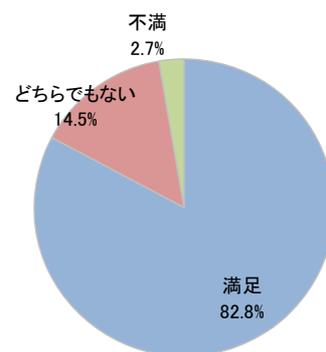
#### 10. その他

地元のフリーペーパー／地図／飛行機内でもらうクーポン本／ホテルの雑誌・パンフレット／修学旅行の事前学習／現地知人・友人の案内／タクシーの運転手／カーナビ／パックに入っていた

- 北部地域内の観光施設等の情報収集方法で最も多かったのは「旅行ガイドブックや雑誌」の66.9%で、次いで「旅行会社のホームページ・パンフレットや窓口」の27.3%と大きく差が出る結果となった。また、そのほかの情報収集方法で20%を超えるものはなかった。
- 近年の旅行形態として、旅行会社を通しての計画ではなく、個人で計画を立てる方が多くなっていることがうかがえる。
- 今後の北部地域の広告方法として、「旅行ガイドブックや雑誌」が最も有効な手段であることが考えられる。

Q26：直近で北部地域を訪れた際の満足度を回答してください。またその回答理由もお書きください。(ひとつだけ) ※理由は資料編に掲載

単一回答	N	%
1 満足 理由【 】	683	82.8
2 どちらでもない 理由【 】	120	14.5
3 不満 理由【 】	22	2.7
全体	825	100.0



- 北部地域の満足度として「満足」と答えた方は全体の82.8%だった。
- 今後は「どちらでもない」「不満」と答えた17.2%という数値を少しでも小さくする対策が必要となる。

### (3)観光消費額の推計と北部地域における経済効果分析

平成 27 年度沖縄県観光実態調査による北部地域入域観光客の観光消費額推計と、ウェブ調査による観光消費額推計に基づく北部地域における経済効果分析を行う。まず経済波及効果分析に必要な北部地域の消費額については、北部地域入域観光客の観光消費額推計とウェブ調査による観光消費額推計によって明らかにする。その後、経済効果分析については「乗数型の経済効果分析」と北部地域産業連関表の作成を通した「北部 IO 型経済効果分析」の二通りの分析を行うことで北部地域における観光の経済効果を把握する。

なお、使用した沖縄県産業連関表は平成 17 年のものとし、更新は今後の課題としたい。

#### ①沖縄県観光実態調査による北部地域入域観光客の観光消費額推計の考え方

(1)の分析と同様に、ここでの北部地域へ入域した観光客とは、北部地域を訪れたことがあると回答した人を指す。平成 27 年度沖縄県観光実態調査における回答者は 4,232 名であり、そのうち北部地域を訪れたことがあると回答した者は 2,164 名で、この北部地域の入域率 51.1%を基礎として観光消費額の推計を行う。

ここでの注意点として、平成 27 年度沖縄県観光実態調査では北部での消費のみではなく、あくまで北部に行った人の消費額であることがあげられる。平成 27 年度沖縄県観光実態調査のデータでは北部地域での消費額を推計することができず、沖縄観光全体への貢献という点からは評価できても北部地域の経済効果とすることには論理性がなく、過大に推計される懸念も残る。そこで、平成 27 年度沖縄県観光実態調査からの消費額推計は表 3-4 で整理するウェブ調査による北部地域観光消費額の補完的推計として捉え、両者を比較することで相互補完的な分析としたい。

#### ②北部地域の入域率を用いた北部地域入域観光客数の推計

これまでに述べた通り、平成 27 年度沖縄県観光実態調査における回答者は 4,232 名であり、そのうち北部地域を訪れたことがあると回答した者は 2,164 名であったので、その割合 51.1%が北部地域の入域率となる。その北部地域の入域率に平成 27 年度の沖縄県観光客 793 万 8 千人を乗じることで、少なくとも北部地域を訪れたことがある観光客数を簡易的に推計することが可能であろう。

また、沖縄県観光実態調査は日本人の回答者に限定されており、沖縄県全体の観光客数ではなく日本人観光客数を乗じることも考えられるが、母数が小さくなることによってさらに過大に推計される可能性もあることから、沖縄県全体の観光客を採用することにした。

北部地域の入域率を用いた北部地域入域観光客数の推計を以下の表 3-1 に示す。

表 3-1 北部地域の入域率を用いた年間北部地域入域観光客数の推計（単位：人、％）

	北部地域訪問者	回答者全体	割合
北部入域率	2164	4232	51.1%
	北部入域率	H27 年全体	北部入域観光客数
推計観光客数	51.1%	7,938,000	4,059,034

出所：沖縄県（2016）を参考に作成

### ③北部地域入域観光客の観光消費額推計

平成 27 年度沖縄県観光実態調査において北部地域を訪れたことがあると回答した人の消費額の合計を求め、同様の回答者の数で除することによって一人当たりの観光消費額を推計する。その一人当たりの観光消費額に表 3-1 で推計した北部地域入域観光客 4,059,034 人を乗じることで北部地域入域観光客の観光消費額推計を行う(表 3-2)。

表 3-2 北部地域入域観光客の観光消費額 (単位：円)

項目	回答者総額	割合	一人当たり	
a 宿泊費	27,587,180	23.5%	12,748	
b 県内交通費	11,788,221	10.0%	5,447	
c 土産・買物	33,214,679	28.3%	15,349	
d 飲食費	30,546,195	26.0%	14,116	
e 娯楽・入場費	12,010,270	10.2%	5,550	
f その他	2,345,450	2.0%	1,084	北部地域総額
合計	117,491,995	100.0%	54,294	<b>220,380,778,901</b>

表 3-2 の結果から、北部地域入域観光客を用いた観光消費額は約 2,203 億 8,078 万円となった。

### ④ウェブ調査を用いた北部地域の観光消費額の推計

北部地域の観光消費額に関するウェブ調査は(株)マクロミルに依頼し、830 名からの回答を得た。「沖縄に関するアンケート」と題してスクリーニングを行い、実施時期は平成 29 年 2 月 23 日(木)から 2 月 26 日(日)の間で実施した。調査票は図 3-1 に示す通りである。

表 3-3 北部地域の観光消費額 (単位：円)

項目	回答者総額	割合	中央値	
a 宿泊費	23,328,172	46.2%	24,000	
b 県内交通費	8,400,782	16.6%	6,000	
c 土産・買物	5,644,849	11.2%	5,000	
d 飲食費	8,085,169	16.0%	5,000	
e 娯楽・入場費	5,006,300	9.9%	5,000	
f その他	6,850	0.0%	3,425	北部地域総額
合計	50,472,122	100.0%	48,425	<b>196,558,722,732</b>

表 3-3 の結果から、北部地域における観光消費額は約 1,965 億 5,872 万円となった。ここで、一人当たりの消費額に平均値ではなく中央値を用いた理由は、平均値を用いると過大に推計される傾向があり、今回の調査では宿泊費に数百万の外れ値が含まれるなど平均値では実態を示さないことにある。表 3-3

の数値は北部地域入域観光客で推計した観光消費額推計と比較して過少になったが、より実態を表していると判断できる。

図 3-1 北部地域の観光消費額に関するウェブ調査票

Q1 Q1 北部地域を訪問した直近の沖縄旅行において、北部地域内でお金をお支払いになった費目をすべてお選びください。(いくつでも)※帰省目的での訪問は除きます。

1. 宿泊費

2. 交通費 ※航空運賃および自家用車による費用を除く。レンタカー代、バス代、タクシー代など、北部地域内で使用した交通費。

3. みやげ代

4. 飲食費

5. 娯楽費

Q1\_6FA  6. その他(内容:[ ])[ ]

7. 北部地域でお金は使っていない

Q2 Q2 北部地域を訪問した直近の沖縄旅行において、北部地域内での支出金額(税抜き/大よそでも結構です)を費目ごとにお答えください。※1人あたりの金額でお答えください。※帰省目的での訪問は除きます。

Q2S1N 1. Q2S1 宿泊費 【 】円

Q2S2N 2. Q2S2 交通費 【 】円

Q2S3N 3. Q2S3 みやげ代 【 】円

Q2S4N 4. Q2S4 飲食費 【 】円

Q2S5N 5. Q2S5 娯楽費 【 】円

Q2S6N 6. Q2S6 【 】円

Q3 Q3 北部地域を訪問した直近の沖縄旅行において、旅行全体の宿泊日数と北部地域での宿泊日数をお答えください。※帰省目的での訪問は除きます。

Q3S1N 1. Q3S1 旅行全体の宿泊日数 【 】日

Q3S2N 2. Q3S2 北部地域での宿泊日数 【 】日

## ⑤乗数型の経済効果分析

### a. 乗数法による経済波及効果の推計手順

まず、今回の経済効果分析の基礎となるので、乗数法による経済波及効果の推計手順を簡潔に説明する。観光やイベントの経済波及効果の推計と言えば現在、「産業連関分析」によるものが一般的である。産業連関表を用いた分析の場合、経済波及効果を産業別に把握することが可能であるが、市町村レベルで分析を行う場合もちろん、当該市町村の「産業連関表」が必要である。企業への実査によって作成するサーベイ法から、既存のデータなどを踏まえ、サーベイ法で作成された県などの産業連関表を按分し作成するノン・サーベイ法まで、様々な市町村の産業連関表の作成手法がある。

しかし、実際に作成すると、当該市町村には元々存在していない産業も多く、「産業連関表」の行列の要素の多くが「0」となっているケースが少なくない(要素「0」が多い産業を通じた経済波及効果は全く無いか、あっても極めて小さなものになる)。つまり、コストを掛けて市町村が、独自に産業連関表を作成し、経済波及効果を産業別に把握する必要があるのかは疑問である。

他方、産業別に拘泥せず、観光やイベントが市町村全体に及ぼす経済効果の把握に特化した手法が「乗数法による経済波及効果の推計」である。経済波及効果の推計法としては乗数法の歴史の方が古く、産業別の効果の把握を目的としないことからもちろん、市町村の産業連関表は不要となる。

## b. 直接効果の推計

乗数法で観光やイベントの経済波及効果を推計する場合にも、「直接効果」の把握から始まることになる。「直接効果」は、アンケートや主催者の決算書などから把握した観光客や参加者1人当たりの消費額や、イベント実行費に自給率を掛けて求める(式(1)参照)。

$$E_j^0 = (1 - m_j) \times C_j \quad (1)$$

$E_j^0$  :  $j$ の直接効果,  $m_j$  : 移輸入率 (自給率=1- $m_j$ ),

$C_j$  : 観光・イベント関連消費  $j$ ,  $j=1$  = 市町村外消費,  $2$  = 市町村内消費,  $3$  = 実行費

自給率を掛けるのは、当該市町村のみで生じた経済波及効果が推計の対象だからである。ただし、同じ財やサービスに対する消費でも、域内消費である市町村内からの観光客、参加者や実行費には自給率を掛けることになる。一方、移輸出に該当する市町村外からの観光客や参加者の消費に自給率を掛ける必要はない(加工貿易が前提の日本の経済統計では、移輸出は100%地域、あるいは国産(=自給率100%)と考えるため)。

## c. 1次間接波及効果

増えた直接効果(最終需要)を充足するために、当該市町村の生産は拡大することになる。その後、当該市町村では、生産拡大に必要な原材料・半製品の(中間)需要が増えることになる。企業経営のレベルであれば、原材料・半製品の(中間)需要は製造原価率などを用いて算出することが可能であるが、「産業連関分析」では中間投入係数行列を掛けて算出されることから、市町村レベルでは製造原価率に代わり、産業連関表の中間投入(需要)合計が地域内生産額に占める割合( $a$ )を用いることが可能になる。この原材料・半製品(中間)需要の増加が当該市町村の生産を拡大し、その生産の拡大に必要な原材料・半製品の(中間)需要がさらに増加する。直接効果によって増えた原材料・半製品(中間)需要が、当該市町村の生産と原材料・半製品(中間)需要の増加を繰り返すことで(この循環的な増加が「乗数効果」)、地域経済の拡大を生じさせることになるのである(式(2)参照)。

$$E_j^1 = \frac{1}{1 - (1 - m_k)a} \times (1 - m_k) \times a \times E_j^0 \quad (2)$$

$E_j^1$  :  $j$ の1次間接波及効果,  $m_k$  : 移輸入率 (自給率=1- $m_k$ ,  $k \neq 1$ ),

$a$  : 中間投入(需要)合計が総産出に占める割合 (≡製造原価率)

#### d. 2次間接波及効果

この段階までに生じた「直接効果」と「1次間接波及効果」は、それらの生産活動に従事し従業員などが得た所得、そしてその所得による消費を通じて、市町村全体の経済活性化につながる。これが「第2次間接波及効果」である。したがって、「第2次間接波及効果」は、当該市町村のこの生産が拡大した分に「所得化係数」を掛け、観光やイベント関連の産業の従業員などに配分される所得の把握から始まることになる。「所得化係数」は、企業経営のレベルであれば、給与所得などの財務情報に基づき算出されるであろう。

しかし、「産業連関分析」では、各産業の地域内総生産額に占める雇用者所得の割合(所得化係数)の行列を用いることから、乗数法の場合は雇用者所得の合計が地域内生産額の合計に占める割合(v)の代用が可能である。観光やイベント関連の産業の従業員の増加した所得に、所得の増加分のうち消費の増加に充てられる割合を表す「限界消費性向(c)」を掛ければ、所得の増加に伴う消費の増加の大きさを把握することが可能となる。

平成22年度の沖縄県の『観光消費による経済波及効果の推計』報告書では、この「限界消費性向(0.671)」を「家計調査年報(総務省、2009年)」の沖縄県の可処分所得率(0.865)と平均消費性向(0.776)の積で求めている。増えた消費に自給率を掛け、観光やイベント関連の産業の従業員の当該市町村内産品、サービスに対する消費の増加分を特定する。この消費の増加を充足するため当該市町村の生産は拡大することになる。

続いて、この生産の拡大に必要な原材料・半製品の(中間)需要が増加することになる。観光やイベント産業の従業員による消費増加に伴う当該市町村の生産の拡大と、原材料・半製品(中間)需要の循環的な増加が(この部分が「乗数」に当たる)、地域経済のさらなる拡大、すなわち「第2次間接波及効果」が市町村に生じることになる(式(3)参照)。

$$E_j^2 = \frac{1}{1 - (1 - m_k)a} \times (1 - m_k) \times (E_j^0 + E_j^1) \times v \times c \quad (2)$$

$E_j^2$  : j の 2 次間接波及効果,       $c$  : 限界消費性向

$v$  : 雇用者所得の合計が総産出に占める割合

#### e. 誘発係数

「直接効果」と「1次間接波及効果」、そして「2次間接波及効果」の総和が、観光やイベントが当該市町村にもたらす「総経済波及効果」となる。「総経済波及効果」を当該市町村の財・サービスへの消費を問わない観光客やイベントの参加者の消費額や、実行費の合計で割ると「誘発係数」が得られる。「誘発係数」とは観光客やイベントの参加者や実行側が1円の消費を行った場合に、当該市町村で生じる「総経済波及効果」の大きさを表している。同係数が大きいことは、その観光やイベントが効率よく当該市町村に経済波及効果をもたらしていることを意味している。

地域経済振興の観点に立てば「直接効果」や「1次間接波及効果」、「2次間接波及効果」や、その合計の「総経済波及効果」の増進も重要である。しかし、この「誘発係数」の昂進こそが観光やイベントによる地域振興が意識すべき KPI (Key Performance Index) なのかもしれない、ということが言えるであろう。「誘

発係数」は、観光客やイベント参加者の初期消費や実行費の大きさより、当該市町村の経済を循環的に拡大する乗数の大きさにより決まるので、市町村の健全な経済成長には、当該市町村内の個々の産業の高度連関や(≒高い原価率)、原材料や半製品の高い自給率や雇用の促進(≒高い所得化係数)こそが重要と考えられるからである。

f. 乗数型の経済効果分析結果

表 3-4 北部地域入域観光客の観光消費額を用いた乗数型の経済効果分析

H27 年度北部基礎データ

入域観光客数 (人)	4,059,034
1 人当たり消費額 (円)	54,294
総消費額 (円)	220,380,778,901
原価率 (中間投入係数)	0.437
移輸入率	0.259
所得化係数	0.317
限界消費性向	0.671
乗数	1.478

直接効果 (円)	220,380,778,901
1 次間接波及効果 (円)	105,450,089,715
2 次間接波及効果 (円)	75,887,017,162
総効果 (円)	401,717,885,779
誘発係数	1.82

表 3-4 の結果から、乗数は 1.478 となり、直接効果を約 2,204 億円とすると 1 次間接波及効果で約 1,055 億円、2 次間接波及効果で約 789 億円となり総効果は約 4,017 億円、誘発係数は 1.82 となった。

表 3-5 ウェブ調査による北部地域の観光消費額を用いた乗数型の経済効果分析

H27 年度北部基礎データ

入域観光客数（人）	4,059,034
1 人当たり消費額（円）	48,425
総消費額（円）	196,558,722,732
原価率（中間投入係数）	0.437
移輸入率	0.259
所得化係数	0.317
限界消費性向	0.671
乗数	1.478

直接効果（円）	196,558,722,732
1 次間接波及効果（円）	94,051,464,242
2 次間接波及効果（円）	67,684,011,463
総効果（円）	358,294,198,436
誘発係数	1.82

表 3-5 の結果から、乗数は 1.478 となり、直接効果を約 1,966 億円とすると 1 次間接波及効果で約 941 億円、2 次間接波及効果で約 679 億円となり総効果は約 3,583 億円、誘発係数は 1.82 となった。

### ⑥北部 IO 型の産業別経済効果分析

(3) の冒頭で述べた通り、今回の調査では分析期間の観点から平成 28 年 3 月に更新されたばかりの平成 23 年沖縄県産業連関表は使用せず、一期前となる平成 17 年沖縄県産業連関表から北部地域の地域産業連関表を作成し、経済波及効果を行った。

乗数法ではあるが、⑤において経済効果分析の基礎となる直接効果、1 次間接波及効果、2 次間接波及効果および誘発係数などの説明を行ったので、⑥では推計した北部地域の地域産業連関表に基づいた産業別の経済波及効果の結果を簡潔に示すこととする。また、北部 IO 型の経済効果分析では、LQ 法を用いて推計した北部地域の地域産業連関表と沖縄県の産業連関表を用いた分析の二通りを示し、投入する観光消費額は④で用いたウェブ調査による北部地域の観光消費額とする。

#### a. 産業連関分析による経済波及効果の推計手順

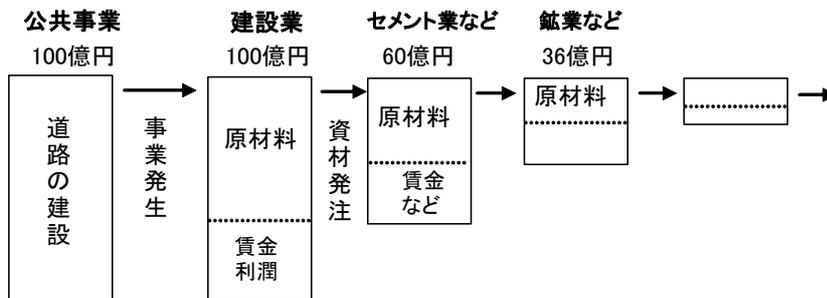
産業連関分析は、国や地方自治体が行う種々の公共政策について、その政策がもたらす経済効果を定量的に把握、分析することができる。近年わが国では政策評価への関心が高まっているが、こうした公共政策を定量的に評価するための分析ツールとしても、産業連関分析の有用性は高いといえる。以下では、産業連関分析による経済波及効果（以下、経済効果）の考え方を紹介しながら、北部地域産業連関表を用いた観光の経済効果を示す。

## b. 経済効果の考え方

産業連関分析を行う際には、当該地域の産業連関表を用いることになる。産業連関表とは、国内の経済において一定期間に行われた財・サービスの産業間取引を一つの表にまとめたもので、同表をみれば財・サービスが各産業部門間でどのように生産され・販売されたかを知ることが可能である。したがって、産業連関表を用いれば、産業間の連鎖的な繋がりがもたらす経済波及効果を把握することができる。

以上のことから、本稿で述べる「経済効果」とは、ある産業 A への需要の発生により、他の産業の生産が次々と誘発されていく過程を意味している。図 3-2 は、公共事業が実施された場合の経済効果のプロセスである。同図では、100 億円の道路建設に伴って建設業に 100 億円の事業が発生し、次に建設業からセメント業などへ 60 億円分の資材発注が行われ、さらにセメント業などから鉱業などへ 36 億円の原材料の発注が行われるという一連の波及効果のプロセスが示されている。

図 3-2 経済効果のプロセス



(注)モデル例として、各産業の生産額に占める原材料の比率を一律6/10としている。

出所：土居英二ほか『はじめよう地域産業連関分析』p. 2 を加筆、修正

上記のような波及のプロセスを経て、最終的には当初投資額 100 億円以上の生産が誘発されることになり、産業連関分析では、こうした生産誘発効果を産業別に推計することができる。

### c. 観光消費の経済効果—北部地域産業連関表を用いた分析—

上述の考え方を踏まえて、以下では沖縄県北部地域への観光客の増加が同地域にもたらす経済的なインパクト(経済効果)を示す。なお、分析に用いたデータおよび産業連関表は、本事業で推計・作成した北部地域観光消費額、北部地域産業連関表を使用している。

計測モデル

$$\begin{aligned}\Delta X_1 &= \left[ I - (I - \bar{M})A \right]^{-1} \Delta F \\ \Delta X_2 &= \left[ I - (I - \bar{M})A \right]^{-1} (I - \bar{M})ckw \Delta X_1 \\ \Delta X &= \Delta X_1 + \Delta X_2\end{aligned}$$

$\Delta X$  = 生産誘発額合計 (直接効果+1次間接波及効果+2次間接波及効果)

$\Delta X_1$  = 第1次生産誘発額 (直接効果+1次間接波及効果)

$\Delta X_2$  = 第2次生産誘発額 ( $\Delta X_1$ による雇用者所得の増加を通じた生産誘発額)

$I$ =単位行列、 $A$ =投入係数行列、 $\bar{M}$  = 移輸入係数行列

$\Delta F$ =最終需要変化額、 $k$ =消費転換係数、 $c$ =民間消費支出構成比、

$w$ =雇用者所得率

観光客が北部地域を訪れることで、同地域には(観光)需要が発生することになる。上記の式の $\Delta X_1$ (第一次生産誘発額)は、こうした観光客の来訪によって生じる「需要」を満たすために直接的・間接的に誘発される生産額を示している。また、第一次生産誘発によって雇用者の所得が増加し、その増加した所得の一部が消費活動にまわることによって誘発される生産額を第二次生産誘発( $\Delta X_2$ )として示している。

第一次生産誘発( $\Delta X_1$ )と第二次生産誘発( $\Delta X_2$ )の合計( $\Delta X$ )が北部地域の経済効果(総合効果)となる。

表 3-6 北部地域産業連関表と北部地域の観光消費額を用いた北部地域の経済効果分析

(単位:百万円)					
	F	第一次生産誘発	第二次生産誘発	総効果	
1	農林水産業	3275	9329	970	10299
2	鉱業	0	666	111	777
3	食料品・たばこ・飲料	3951	15659	3145	18804
4	繊維製品	1449	1623	48	1671
5	製材・木製品・家具	268	463	28	491
6	パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	0	321	71	392
7	出版・印刷	347	2050	498	2548
8	化学製品	0	121	54	175
9	石油製品・石炭製品	3476	8028	1333	9361
10	プラスチック・ゴム製品	0	250	54	304
11	その他の製造工業製品	1006	1010	2	1013
12	窯業・土石製品	2336	3640	156	3796
13	鉄鋼製品	0	273	45	318
14	非鉄金属	0	50	10	60
15	金属製品	0	481	98	579
16	一般機械・事務用・サービス用	0	7	2	8
17	電気機械	125	137	21	157
18	輸送機械	0	97	62	159
19	精密機械	174	257	35	293
20	建設	0	2461	594	3054
21	電力・ガス・水道	0	16916	3152	20068
22	商業(卸)	2367	11434	2408	13842
23	商業(小売)	5500	9961	3665	13626
24	金融・保険・不動産	0	28710	8298	37007
25	住宅賃貸料(帰属家賃)	0	0	4003	4003
26	鉄道輸送	0	47	17	64
27	道路輸送	5661	8705	1032	9737
28	水運	1500	2110	109	2219
29	航空輸送	0	164	201	365
30	運輸付帯サービス	0	4570	279	4849
31	通信・放送	116	5326	2308	7634
32	公務	0	430	195	625
33	その他の公共サービス	2727	4880	5198	10079
34	その他の対事業所サービス等	318	12952	3035	15988
35	物品賃貸サービス(貸自動車)	425	1942	323	2266
36	貸自動車業	12906	13476	94	13569
37	娯楽サービス	11555	11849	1319	13168
38	飲食店	20295	20295	2717	23013
39	旅館・その他の宿泊所	97417	97417	308	97725
40	その他の対個人サービス	19365	22356	1796	24152
41	その他	0	2187	383	2570
	合計	196559	322651	48178	370828

1.887

A (単位:百万円)	
雇用者所得比率(行ベクトル) × 一次誘発	
62715	

B (単位:百万円)	
消費転換係数 × 上記A	
42082	

C (単位:百万円)	
------------	--

民間消費支出ベクトル(列) × 上記B	
農林水産業	571
鉱業	-1
食料品・たばこ・飲料	4518
繊維製品	496
製材・木製品・家具	38
パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	67
出版・印刷	261
化学製品	432
石油製品・石炭製品	1036
プラスチック・ゴム製品	56
その他の製造工業製品	180
窯業・土石製品	34
鉄鋼製品	0
非鉄金属	16
金属製品	47
一般機械・事務用・サービス用機器	13
電気機械	827
輸送機械	511
精密機械	292
建設	0
電力・ガス・水道	1588
商業(卸)	2729
商業(小売)	4106
金融・保険・不動産	3903
住宅賃貸料(帰属家賃)	4003
鉄道輸送	60
道路輸送	923
水運	151
航空輸送	539
運輸付帯サービス	203
通信・放送	1410
公務	119
その他の公共サービス	4842
その他の対事業所サービス等	1187
物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	25
貸自動車業	14
娯楽サービス	1409
飲食店	2960
旅館・その他の宿泊所	879
その他の対個人サービス	1632
その他	4
合計	42082

D [単位:百万円]	
------------	--

自給率係数(I-M) × 左記C	
	321
	0
	2356
	37
	6
	13
	155
	17
	722
	11
	2
	25
	0
	3
	17
	0
	18
	38
	22
	0
	1582
	1493
	3325
	3864
	4003
	11
	643
	53
	171
	130
	1327
	119
	4750
	816
	16
	13
	1286
	2717
	308
	1594
	3
	31987

表 3-7 沖縄県産業連関表と北部地域の観光消費額を用いた北部地域の経済効果分析

(単位:百万円)					
	F	第一次生産誘発	第二次生産誘発	総効果	
1	農林水産業	3275	7970	769	8738
2	鉱業	0	477	76	553
3	食料品・たばこ・飲料	3951	13149	2646	15795
4	繊維製品	1449	1604	40	1644
5	製材・木製品・家具	268	405	19	424
6	パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	0	239	52	291
7	出版・印刷	347	1388	328	1716
8	化学製品	0	86	38	124
9	石油製品・石炭製品	3476	6569	1025	7594
10	プラスチック・ゴム製品	0	184	37	221
11	その他の製造工業製品	1006	1009	2	1011
12	窯業・土石製品	2336	3288	107	3395
13	鉄鋼製品	0	260	41	301
14	非鉄金属	0	37	8	45
15	金属製品	0	330	69	399
16	一般機械・事務用・サービス用機器	0	4	1	5
17	電気機械	125	132	17	149
18	輸送機械	0	50	48	98
19	精密機械	174	232	28	260
20	建設	0	1446	374	1820
21	電力・ガス・水道	0	12228	2375	14603
22	商業(卸)	2367	9143	1912	11054
23	商業(小売)	5500	8828	3144	11973
24	金融・保険・不動産	0	18243	5917	24159
25	住宅賃貸料(帰属家賃)	0	0	3527	3527
26	鉄道輸送	0	34	13	47
27	道路輸送	5661	7836	815	8651
28	水運	1500	1980	83	2064
29	航空輸送	0	106	169	275
30	運輸付帯サービス	0	3500	248	3748
31	通信・放送	116	3361	1740	5101
32	公務	0	302	154	456
33	その他の公共サービス	2727	4154	4461	8615
34	その他の対事業所サービス等	318	8145	1983	10127
35	物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	425	1300	186	1486
36	貸自動車業	12906	13303	63	13366
37	娯楽サービス	11555	11760	1154	12914
38	飲食店	20295	20295	2394	22689
39	旅館・その他の宿泊所	97417	97417	272	97688
40	その他の対個人サービス	19365	21561	1525	23086
41	その他	0	1436	233	1668
	合計	196559	283788	38090	321879

1.638

125

A (単位:百万円)

雇用者所得比率(行ベクトル)×一次誘発	
55256	

B (単位:百万円)

消費転換係数×上記A	
37077	

C (単位:百万円)	D (単位:百万円)	
民間消費支出ベクトル(列)×上記B	自給率係数(I-M)×左記C	
農林水産業	503	283
鉱業	-1	0
食料品・たばこ・飲料	3981	2076
繊維製品	437	33
製材・木製品・家具	34	5
パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	59	11
出版・印刷	230	137
化学製品	380	15
石油製品・石炭製品	913	637
プラスチック・ゴム製品	50	10
その他の製造工業製品	158	1
窯業・土石製品	30	22
鉄鋼製品	0	0
非鉄金属	14	2
金属製品	42	15
一般機械・事務用・サービス用機器	11	0
電気機械	728	16
輸送機械	450	34
精密機械	257	19
建設	0	0
電力・ガス・水道	1399	1394
商業(卸)	2404	1315
商業(小売)	3618	2929
金融・保険・不動産	3438	3404
住宅賃貸料(帰属家賃)	3527	3527
鉄道輸送	52	10
道路輸送	813	567
水運	133	47
航空輸送	475	151
運輸付帯サービス	179	114
通信・放送	1242	1169
公務	105	105
その他の公共サービス	4266	4185
その他の対事業所サービス等	1046	719
物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	22	14
貸自動車業	12	11
娯楽サービス	1242	1133
飲食店	2608	2394
旅館・その他の宿泊所	775	272
その他の対個人サービス	1438	1404
その他	3	3
合計	37077	28182

産業別の経済波及効果は表 3-6 および 3-7 に示したが、ここでは表 3-5 などにしたがって、北部地域の観光消費による経済波及効果の結果を表 3-8 に示す。

表 3-8 ウェブ調査による北部地域の観光消費額を用いた北部 10 型の経済効果分析

(単位：百万円)

	第一次生産誘発効果		第二次生産誘発効果		総合効果	
	(直接効果+間接一次効果)	構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
農林水産業	9,329	2.9	970	2.0	10,299	2.8
鉱業	666	0.2	111	0.2	777	0.2
食料品・たばこ・飲料	15,659	4.9	3,145	6.5	18,804	5.1
繊維製品	1,623	0.5	48	0.1	1,671	0.5
製材・木製品・家具	463	0.1	28	0.1	491	0.1
パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	321	0.1	71	0.1	392	0.1
出版・印刷	2,050	0.6	498	1.0	2,548	0.7
化学製品	121	0.0	54	0.1	175	0.0
石油製品・石炭製品	8,028	2.5	1,333	2.8	9,361	2.5
プラスチック・ゴム製品	250	0.1	54	0.1	304	0.1
その他の製造工業製品	1,010	0.3	2	0.0	1,013	0.3
窯業・土石製品	3,640	1.1	156	0.3	3,796	1.0
鉄鋼製品	273	0.1	45	0.1	318	0.1
非鉄金属	50	0.0	10	0.0	60	0.0
金属製品	481	0.1	98	0.2	579	0.2
一般機械・事務用・サービス用機器	7	0.0	2	0.0	8	0.0
電気機械	137	0.0	21	0.0	157	0.0
輸送機械	97	0.0	62	0.1	159	0.0
精密機械	257	0.1	35	0.1	293	0.1
建設	2,461	0.8	594	1.2	3,054	0.8
電力・ガス・水道	16,916	5.2	3,152	6.5	20,068	5.4
商業(卸)	11,434	3.5	2,408	5.0	13,842	3.7
商業(小売)	9,961	3.1	3,665	7.6	13,626	3.7
金融・保険・不動産	28,710	8.9	8,298	17.2	37,007	10.0
住宅賃貸料(帰属家賃)	0	0.0	4,003	8.3	4,003	1.1
鉄道輸送	47	0.0	17	0.0	64	0.0
道路輸送	8,705	2.7	1,032	2.1	9,737	2.6
水運	2,110	0.7	109	0.2	2,219	0.6
航空輸送	164	0.1	201	0.4	365	0.1
運輸付帯サービス	4,570	1.4	279	0.6	4,849	1.3
通信・放送	5,326	1.7	2,308	4.8	7,634	2.1
公務	430	0.1	195	0.4	625	0.2
その他の公共サービス	4,880	1.5	5,198	10.8	10,079	2.7
その他の対事業所サービス等	12,952	4.0	3,035	6.3	15,988	4.3
物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	1,942	0.6	323	0.7	2,266	0.6
貸自動車業	13,476	4.2	94	0.2	13,569	3.7
娯楽サービス	11,849	3.7	1,319	2.7	13,168	3.6
飲食店	20,295	6.3	2,717	5.6	23,013	6.2
旅館・その他の宿泊所	97,417	30.2	308	0.6	97,725	26.4
その他の対個人サービス	22,356	6.9	1,796	3.7	24,152	6.5
その他	2,187	0.7	383	0.8	2,570	0.7
合計	322,651	100.0	48,178	100.0	370,828	100.0

表 3-9 北部 10 型の経済効果分析による総効果および誘発係数など

H27 年度北部基礎データ

県表\_パラメータ                      北部 10\_パラメータ

直接効果(百万円)	196,559	196,559
1 次間接波及効果(百万円)	87,229	126,092
2 次間接波及効果(百万円)	38,090	48,178
総効果(百万円)	321,879	370,828
誘発係数	1.638	1.887

北部地域における観光消費の経済効果は、表 3-8 に示す通りである。本事業によって推計された北部地域の観光消費額は、1,965 億 5,900 万円となった(直接効果)。この約 1,965 億円の観光需要を満たすために、直接的・間接的に誘発される生産額は、3,226 億 5,100 万円となり(表 3-6 の第一次生産誘発効果)、産業別でみると、宿泊業(旅館・その他の宿泊所)への経済効果が大きく、その額は 974 億 1,700 万円で第一次生産誘発効果の約 30%を占めている。また、宿泊業以外では、金融・保険・不動産(8.9%)や飲食店(6.3%)などへの経済効果が大きくなる結果となった。

第一次生産誘発効果によって生産が増えると、それに伴って各産業で働いている雇用者の所得も増えることになり、この増えた所得の一部が消費に回るので、各産業に消費需要が発生する(第二次生産誘発効果)。第二次生産誘発効果は、金融・保険・不動産業(82 億 9,800 万円)とその他公共サービス(51 億 9,800 万円)で大きくなり、両部門で産業全体の 28%を占めることになる。第一次と第二次の生産誘発効果をあわせた「総合効果」をみると、北部地域での観光消費額(1,965 億 5,900 万円)に対して、3,708 億 2,800 万円の生産誘発効果があることがわかる。

繰り返しになるが、表 3-8 および表 3-9 から、直接効果を約 1,966 億円とすると、北部地域の地域産業連関表を用いた場合の 1 次間接波及効果で約 1,261 億円、2 次間接波及効果で約 482 億円となり総効果は約 3,708 億円、誘発係数は 1.89 となった。

#### d. まとめと今後の課題

このように、産業連関分析では「特定部門への需要の発生→各産業への波及→雇用者所得の増加→所得増加による消費増加→各産業への需要発生→・・・」といった一連の経済循環によって、当初観光需要額を超える生産が誘発されることになる。

上述の分析結果を踏まえて地域振興の視点でみると、今後①北部地域内の産業間連関構造を稠密する、②域内の自給率・産業別の自給率を高める、といった政策対応ができれば、北部地域で発生する観光需要を域内で循環させることが可能になるといえるだろう。そして、そうした域内での経済循環を高めることが、ひいては北部地域の持続的な発展に繋がると考えられる。

平成 28 年度「やんばる観光連携推進事業」経済波及効果等調査プロジェクトメンバー

・経済効果等調査メンバー

名桜大学国際学群観光産業専攻 上級准教授 大谷健太郎

琉球大学観光産業科学部 教授 金城盛彦

沖縄国際大学経済学部 准教授 比嘉正茂

名桜大学国際学群観光産業専攻 上級准教授 伊良皆啓

・経済効果等調査協力者

㈱おきぎん経済研究所 調査研究員 當銘栄一



H28 の成果	目標の達成度と課題
<b>3 観光プロモーション</b> (1) 観光フェア等への出展 ●発地側での観光フェア出展 ⇒「2016 台北国際旅展 (ITF2016)」への出展 アンケート回収数：597 票 ⇒「ふるさと祭り 2017」への出展 アンケート回収数：772 票 ●農商工連携フェア ⇒「やんばるほおぼるカーニバル」と題し、各地の直売店に参加を募り 7 軒が参加した。(12 月 17 日～18 日 来場者 4,503 人)	<b>3 観光プロモーション</b> 指標：やんばるの認知度向上のため、観光客アンケート調査で「やんばる」という地名を知っていますか？」 目標：H27 年度アンケート「聞いたことはある・知らない」21% H28 年度目標 19%以下  (参考※) H28 年度実績 51% (2016 台北国際旅展実績) H28 年度実績 17% (やんばるほおぼるカーニバル実績) H28 年度実績 29% (ふるさとまつり東京実績) H28 年度実績 23% (WEB アンケート実績)  課題：引き続き「やんばる」の知名度向上及びブランド化を図る。 ※目標 19%の設定は「沖縄 EXPOinTokyo」の来場者(観光関連業者)を対象としたものである。当イベントが翌年から開催されていないため、別イベント来場者を対象にアンケート調査を実施したが、それぞれ対象が異なるので比較には注意が必要である。
<b>4 ニーズ把握</b> ●やんばる地域の観光産業に関する経済効果分析 ⇒地域の大学と連携し、やんばる地域における経済効果の分析を行った。 ●H29 年度以降の実施計画策定 ⇒(仮称) やんばる観光市町村等連絡協議会の役割と事業計画	<b>4 ニーズ把握</b> ●経済効果分析結果 入域観光客数推計 4,059,034 人 直接効果 1,966 億円 総効果/誘発係数 3,583 億円/1.82 (乗数型) 3,708 億円/1.89 (北部 IO 表)  課題：引き続き北部での消費を促進する。 ●実施計画 ⇒やんばる観光市町村等連絡協議会は「準備会」を設立して設置について詳細を検討する。 ⇒H29 以降の実施計画として、エリア支援、WEB サイト、観光案内コーナーの継続により事業化を進める。

表 H28 年度終了時における全体目標

H28 の成果	目標の達成度と課題																																				
●北部地域各地の観光客が増加 沖縄県の観光客数 H27【年度】実績 7,936,300 人 H28【暦年】実績 8,613,100 人  ※指標数値の算出方法 H27 実績値：H27 年度の入域観光客数実績 7,936,300 人を対象に、H27 沖縄観光統計実態調査の各地の訪問率を乗じて算出した。  H28 目標値：沖縄県観光推進ロードマップの H28 年の目標値 800 万人を基に、H27 沖縄観光統計実態調査の各地の訪問率を乗じて算出した。  H28 推計値：H28 年(暦年)の入域観光客数実績 8,613,100 人を対象に、H27 沖縄観光統計実態調査の各地の訪問率を乗じて算出した。  ※H+28 年度の入域観光客数の発表は、例年 4 月 20 日ごろであるため H28 年度は暦年の入域観光客数と H27 の訪問率を用いて「推計値」とした	●北部地域に訪れる観光入域客の増加 指標：沖縄県観光統計実態調査の各地の訪問率を参考に北部に訪れる観光客数を推計 目標：北部各地の観光客⇒H28 年度目標 各地で増加  <table border="0"> <tr> <td>・本部半島</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>3,015,800 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (目標値)</td> <td>3,040,000 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (推計値)</td> <td>3,273,000 人</td> </tr> <tr> <td>・北部西海岸</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>2,515,800 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (目標値)</td> <td>2,536,000 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (推計値)</td> <td>2,730,400 人</td> </tr> <tr> <td>・北部東海岸</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>674,600 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (目標値)</td> <td>680,000 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (推計値)</td> <td>732,100 人</td> </tr> <tr> <td>・やんばる最北部</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>531,700 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (目標値)</td> <td>536,000 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28 (推計値)</td> <td>577,100 人</td> </tr> </table> 課題：沖縄県の平成 33 年度の観光客目標数は、当初の 1,000 万人から 1,200 万人に上方修正された。今後も北部地域への周遊・滞在・消費を促していくことが県全体の観光振興にも必要である。	・本部半島	H27 (実績値)	3,015,800 人		H28 (目標値)	3,040,000 人		H28 (推計値)	3,273,000 人	・北部西海岸	H27 (実績値)	2,515,800 人		H28 (目標値)	2,536,000 人		H28 (推計値)	2,730,400 人	・北部東海岸	H27 (実績値)	674,600 人		H28 (目標値)	680,000 人		H28 (推計値)	732,100 人	・やんばる最北部	H27 (実績値)	531,700 人		H28 (目標値)	536,000 人		H28 (推計値)	577,100 人
・本部半島	H27 (実績値)	3,015,800 人																																			
	H28 (目標値)	3,040,000 人																																			
	H28 (推計値)	3,273,000 人																																			
・北部西海岸	H27 (実績値)	2,515,800 人																																			
	H28 (目標値)	2,536,000 人																																			
	H28 (推計値)	2,730,400 人																																			
・北部東海岸	H27 (実績値)	674,600 人																																			
	H28 (目標値)	680,000 人																																			
	H28 (推計値)	732,100 人																																			
・やんばる最北部	H27 (実績値)	531,700 人																																			
	H28 (目標値)	536,000 人																																			
	H28 (推計値)	577,100 人																																			

【参考】

表 北部地域の観光客訪問率

	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28目標値	H28実績(暦年)
沖縄県全体	5,705,300	5,528,000	5,924,700	6,580,300	7,169,900	7,936,300	8,000,000	8,613,100
(伸び率)	0.3%	-3.1%	7.2%	11.1%	9.0%	10.7%	0.8%	8.5%
本部半島	41.2%	41.8%	42.1%	41.1%	37.1%	38.0%	38.0%	38.0%
北部西海岸	32.8%	33.4%	32.5%	32.8%	30.6%	31.7%	31.7%	31.7%
北部東海岸	7.4%	8.1%	7.8%	8.2%	8.3%	8.5%	8.5%	8.5%
やんばる最北部	7.8%	7.8%	8.4%	8.2%	8.4%	6.7%	6.7%	6.7%

出典：H21～H27 沖縄県入域観光客数統計、H28の目標値は沖縄観光推進ロードマップ

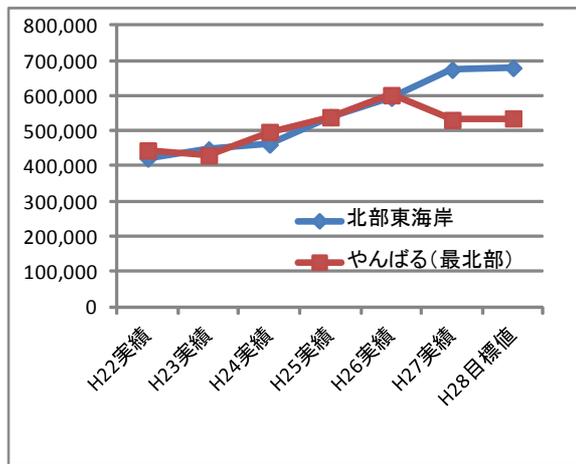
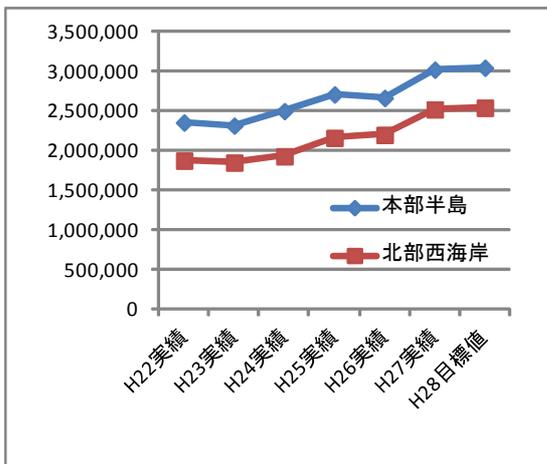
※H28の沖縄県全体の入域観光客は、最新の暦年統計値を使用している。

※H28の、本部半島、北部西海岸、北部東海岸、やんばる最北部の観光客訪問率は、H27の実績値を用いた。

表 訪問率から推計した北部各地の入込者数(目標推計値 沖縄県全体観光客×訪問率)

	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28目標値	H28実績(暦年)
本部半島	2,350,600	2,310,700	2,494,300	2,704,500	2,660,000	3,015,800	3,040,000	3,273,000
北部西海岸	1,871,300	1,846,400	1,925,500	2,158,300	2,194,000	2,515,800	2,536,000	2,730,400
北部東海岸	422,200	447,800	462,100	539,600	595,100	674,600	680,000	732,100
やんばる(最北部)	445,000	431,200	497,700	539,600	602,300	531,700	536,000	577,100

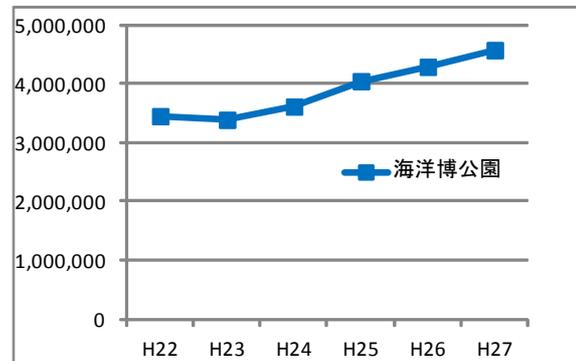
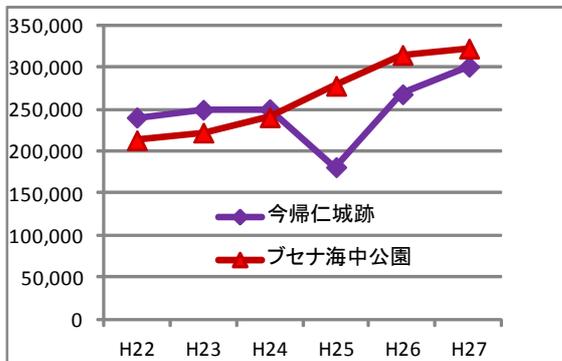
出典：沖縄県観光統計実態調査のデータより推計(沖縄県全体観光客数×訪問率)



出典：沖縄県観光統計実態調査のデータより推計(沖縄県全体観光客数×訪問率)

【参考】表 北部地域主要施設の入込数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
海洋博公園	3,453,151	3,391,223	3,615,981	4,048,576	4,291,548	4,573,189
今帰仁城跡	240,111	249,426	249,930	181,191	267,802	300,627
ブセナ海中公園	212,960	222,075	240,328	277,757	314,436	322,035



出典：沖縄県観光要覧

## 5-2. 今後の展開

### (1) 観光を取り巻く動向

#### ① 観光客の急増

沖縄県の入域観光客数は、外国客の急増を背景に大幅な増加を続けている。

国内客は平成 24 年度より増加傾向が続いており、平成 26 年度には 600 万人を上回り、さらに増加を続けている。これに対し、外国客は、平成 24 年度の対前年比 26.9%からさらに平成 25 年度は 64.0%、平成 26 年度 57.2%と著しい伸びを見せ、平成 27 年度は 167 万 300 人と入域観光客全体の2割を超えた。外国客は、今後も増加傾向が続くとみられている。

表 最近 5 年間の入域観光客の動向

	入域観光客数		国内客		外国客	
	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比
H23年度	5,528,000	△ 3.1%	5,226,600	△ 3.6%	301,400	+ 6.6%
H24年度	5,924,700	+ 7.2%	5,542,200	+ 6.0%	382,500	+ 26.9%
H25年度	6,580,300	+ 11.1%	5,953,100	+ 7.4%	627,200	+ 64.0%
H26年度	7,169,900	+ 9.0%	6,183,900	+ 3.9%	986,000	+ 57.2%
H27年度	7,936,300	+ 10.7%	6,266,000	+ 1.3%	1,670,300	+ 69.4%

出典：平成 27 年度沖縄県観光要覧

こうした状況から、沖縄県観光推進本部では、平成 29 年3月の第5次沖縄県観光振興基本計画の改定にあたって、平成 33 年度までの当初の目標入域観光客数 1,000 万人を 1,200 万人に上方修正している。上方修正は、外国客の当初の目標 200 万人から 400 万人に上乘せしたものである。

さらに、観光収入は当初目標 1.0 兆円を 1.1 兆円、延べ宿泊者数の当初目標 4,027 万人を 4,152 万人としている。

表 第 5 次沖縄県観光振興基本計画の目標フレーム 目標年度平成 33 年度

項目	当初(H24.5)	改訂版(H29.3)
観光収入	1 兆円	1.1 兆円
入域観光客数	1,000 万人	1,200 万人
国内客	800 万人	800 万人
外国客	200 万人	400 万人
観光客 1 人あたりの消費額	10 万円	9 万 3 千円
平均滞在日数	5.00 日	4.46 日
延べ宿泊者数	4,027 万人	4,027 万人

出典：沖縄県 第 5 次沖縄県観光振興基本計画

## ②やんばる国立公園

平成 28 年9月 15 日、国内 33 箇所目の国立公園として、沖縄島北部地域(通称:やんばる)に「やんばる国立公園」が新たに指定された。

やんばる国立公園は、国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、固有動植物や希少動植物が生息、多様な生態系が複合的に一体となった景観が特徴である。今後はやんばる国立公園を含む「奄美・琉球」として世界自然遺産登録を目指す考えで、最短で2年後の平成 30 年6月の登録を目指している。

図表 やんばる国立公園から世界自然遺産登録へ



ヤンバルクイナなど貴重な動物の宝庫



亜熱帯の森はアウトドアフィールドとしての活用も期待されている

## ③本部港のクルーズ拠点化

インバウンド観光の増加の一役を担っているのが大型クルーズ船の寄港であり、平成 28 年8月から9月にかけて、本部町の渡久地港沖に「スーパースター・ヴァーゴ」(7万 5,338トン、乗客定員 1,960人)が寄港した。今後も美ら海水族館やんばる国立公園などを目的地にクルーズ船の北部地域への寄港ニーズは高まることが予想される。

こうしたなか、平成 29 年1月 31 日に、国土交通省港湾局産業港湾課における「官民連携による国際クルーズ拠点」の全国6港のうちの一つに本部港が選定された。

選定委員会の評価のポイントは、沖縄本島北部地域の主要な出入口であり、豊富な観光資源の魅力を活かした計画であること、供用開始に向けて CIQ 機能(※1)の確保が必要であることなどが挙げられている。

※1 : CIQ 機能 : 税関(Customs)、出入国管理(Immigration)、検疫(Quarantine)が可能な機能。

## (2)今後の課題

「やんばる観光連携推進事業」では、①連携の仕組みづくり、②情報集約・発信、③観光プロモーション、④ニーズ調査という4つの取組みを柱に進めてきた。

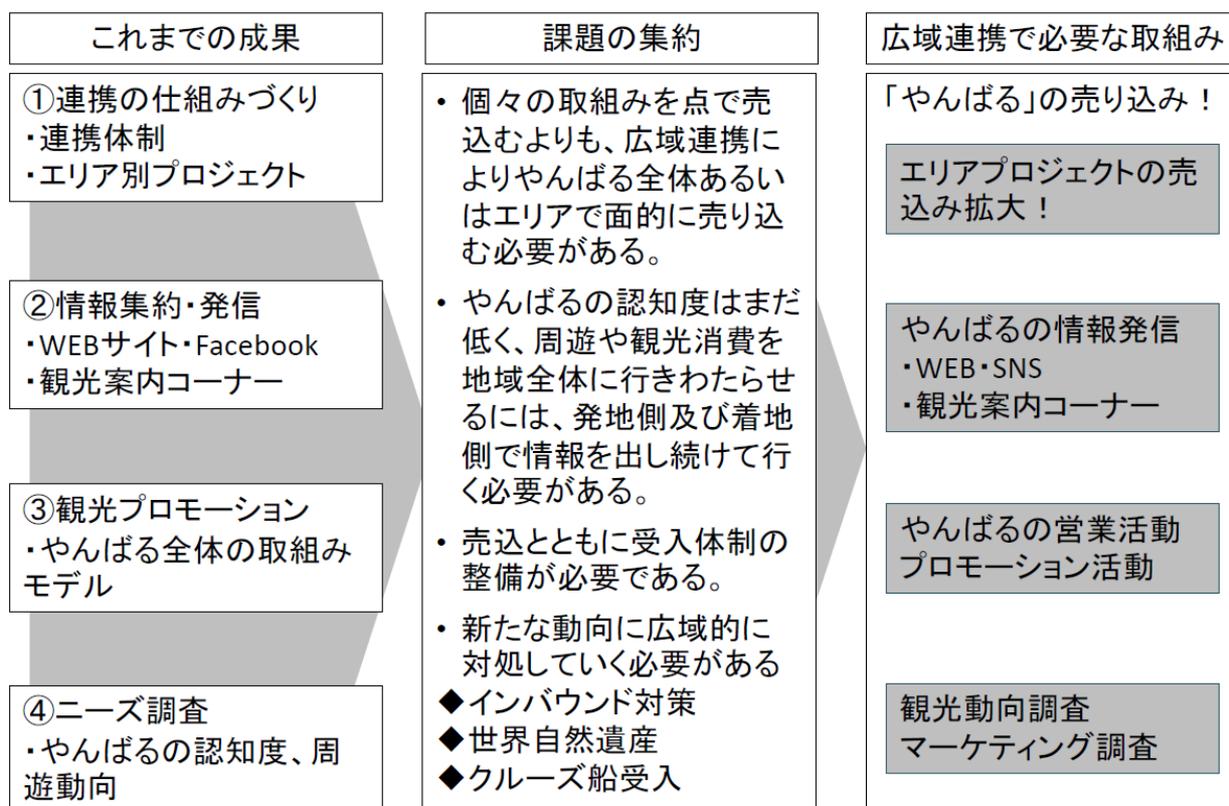
それぞれの取組みを進めるなかで、やんばる全体で、または一定のエリアで面的に売り込んでいく必要性は共有されてきた。

また、観光プロモーション活動やニーズ調査の結果から、美ら海水族館を始め、知名度の高い観光スポットはありつつも、地域としての「やんばる」に関する認知度はまだまだ低い状況にあり、増加する観光客の周遊や観光消費を地域全体に行きわたらせるには、発地側及び着地側の両方で情報発信やPRを継続していくことが必要であることが分かってきた。

今後、沖縄県の観光客数は訪日外国人の急増を背景として更なる増加が予測され、入域観光客の目標数値も当初の平成33年1,000万人から1,200万人へと上方修正されている。

こうしたことから、北部地域ではまずインバウンド対策が急務となる。さらに平成28年9月に指定を受けた「やんばる国立公園」が世界自然遺産登録を目指すことや、本部港が官民連携による国際クルーズ拠点として位置づけられることなど、新たな動向について広域的な対処が必要となる、といったことが今後の課題としてあげられる。

図 やんばる観光連携推進事業の成果と課題の集約



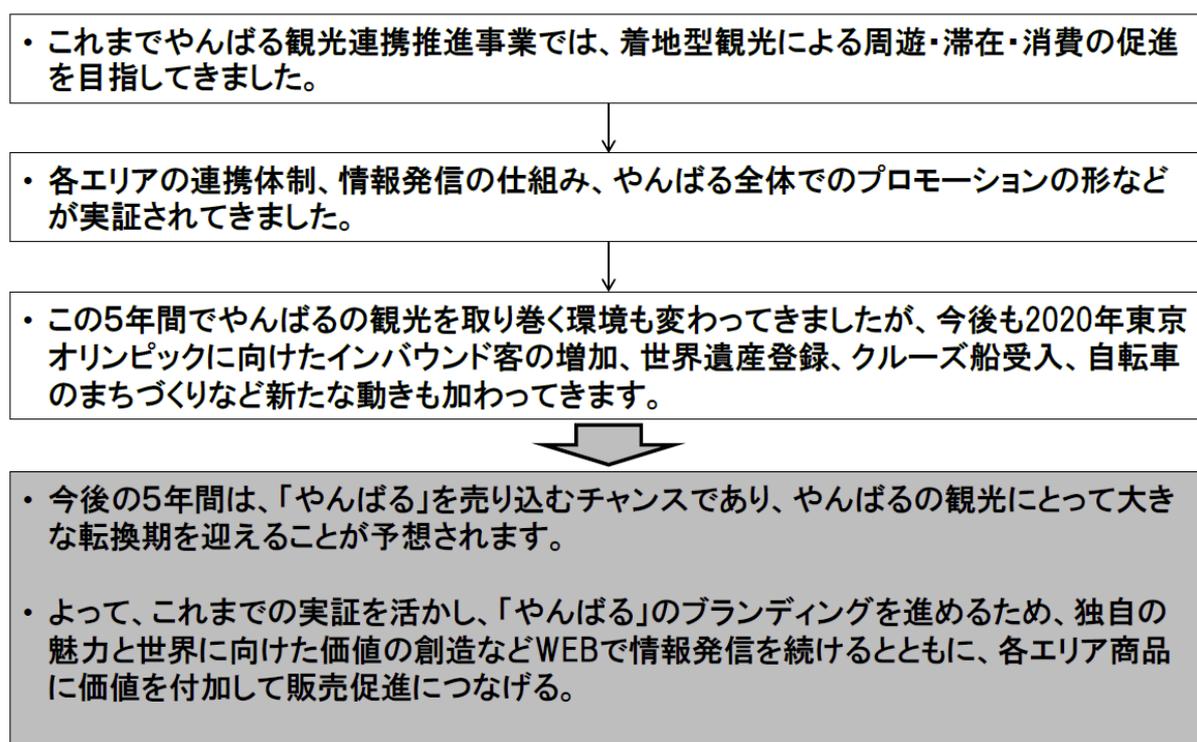
### (3)今後の取組み方針

これまでやんばる観光連携推進事業では、着地型観光による周遊・滞在・消費の促進を目指して取組み、各エリアの連携体制、情報発信の仕組み、やんばる全体でのプロモーションの形などを実証事業として行ってきた。

やんばる地域は、沖縄県の中でも自然環境が豊かで、歴史文化的な資源も多く残されている地域であるが、今年度経済効果分析に伴って行ったWEBアンケート結果をみると、地元や県内客には観光スポットとして認識されている場所でも、県外客にはあまり知られていない場所が多く見受けられる。

今後、世界自然遺産登録やクルーズ船の拠点化等により国際的にも注目が集まり、やんばるの観光にとって大きな転換期を迎えることが予想される。ただし、「やんばる」を売り込んでいくにあたっては単純に観光客を増やすだけでなく、経済効果分析結果からも課題としてあげられたように、地元の産物の地産地消を進め、モノ消費、コト消費(※)を伴った経済効果へとつなげる必要がある。そのためには単に情報発信だけでなく、地域資源の価値を高めブランド化を図るとともに、やんばるファンを増やし、満足度を高めていくよう配慮する必要がある。

図 「やんばる」の情報発信からブランディングへ



※モノ消費、コト消費とは

モノ消費：個別の製品やサービスの持つ機能的価値を消費すること。価値の客観化(定量化)は原則可能。

コト消費：製品を購入して使用したり、単品の機能的なサービスを楽しむのみでなく、個別の事象が連なった総体である「一連の体験」を対象とした消費活動のこと。

#### (4)今後の展開

今後の課題や方針を受け、今後の具体的な取組み内容を示す。

##### ①連携の仕組みづくり

##### a. (仮称) やんばる観光市町村等連絡協議会の設置・運営

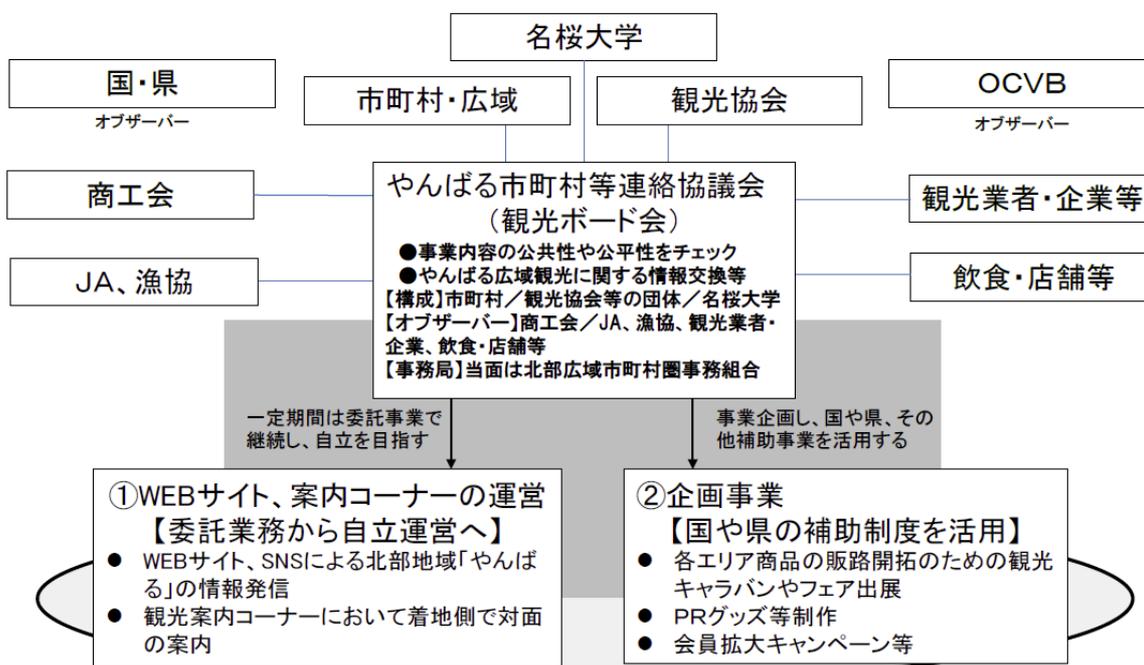
(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会(以下、「連絡協議会」という)の業務内容のイメージは、これまでやんばる観光連携推進事業で進めてきた取組みを継続、発展させていくことである。

設置については、平成29年度に「設立準備会」を設け、組織、運営、活動方針等、協議会の設置に伴う必要事項を定めることとする。

図 やんばる観光市町村等連絡協議会の業務内容イメージ

【組織の機能】	【内容】	【財源(案)】
情報集約・発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WEBサイト・SNSの管理・運営</li> <li>●観光案内コーナーの管理・運営</li> </ul>	一定期間北部広域からの委託業務として継続し自立を目指す
プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各エリアの着地型商品の売込み</li> <li>●WEB会員募集キャンペーンなどの実施</li> <li>●PRグッズ等制作</li> </ul>	国、県等の補助制度活用
マーケティング調査	●WEBサイト、観光案内コーナーを活用した情報収集	WEBサイトの活用 国、県等の補助制度活用
広域連携による観光まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●広域観光の施策に関する企画及び実行</li> <li>●国や県、OCVBとの連携・調整、要請</li> <li>●広域観光に関する制度研究(DMO等)</li> </ul>	国、県等の補助制度活用

図 やんばる市町村等連絡協議会の形態イメージ



## **b. エリアプロジェクトの事業化**

各エリアのプロジェクトについては、事業化、自立化が課題となっている。これまで各エリアと企画会議等を通して連携体制ができてきており、今年度製作した PR ツールなどを活用しながら営業活動の継続を図っていく。

今後は、「連絡協議会」において進捗状況を確認しながら、事業化を目指すものとする。

プロジェクトの広報などについては、「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」などを活用するとともに、国・県などの制度の活用を図りながら自立を目指す。

## **②情報集約・発信**

### **a. 情報サイトの運営・管理**

やんばる観光連携推進事業で作成した「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」については、閲覧者が増加してきており、Facebook は 31,041 件(平成 29 年 3 月 15 日時点)となっている。今後は Facebook 及びその他の SNS(Twitter、Instagram 等)も活用しながら閲覧者の増加を図り、WEB サイトへの導線を強化する。

運営、管理にあたっては、「連絡協議会」において進捗状況を確認しながら、自立化を目指すため、閲覧者の追跡調査など情報発信の効果を図りながら、閲覧者及び地元の観光関連業者等の会員化を図り、有料化などを検討していく。

### **b. 観光案内コーナーの運営・管理**

やんばる観光案内コーナーは、観光客から好評を得てきた。やんばる地域一円のパンフレットの集約が進んでおり、外国人向けのパンフレットも充実してきている。

今後は、「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」などと連動しながら、自立に向けた収益の仕組みづくりや国・県などの制度活用による設置を検討する。

## **③観光プロモーション**

やんばる観光連携推進事業では、平成 25 年度から「やんばる」を一体として観光フェアへの出展を行ってきた。その中で、市町村個別でのプロモーションよりもやんばる全体で行う方が、来場者に訴えやすいことが把握されている。

今後は「やんばる」のブランド化を図るためにも、やんばる全体でプロモーション活動を続けていくことが望まれる。実施にあたっては、国・県などの制度活用による実施を検討する。

## **④ニーズ調査**

やんばるへの誘客や周遊、滞在、消費拡大を目指す上で観光客のニーズ把握は継続していくことが望まれる。また、観光客の動向は社会情勢に応じて今後も変化していく事が考えられる。

このため、「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」を活用したニーズ調査や、必要に応じた調査の実施を図っていく。

# 平成28年度 委員名簿

やんばる観光連携推進事業に係る副長・観光担当課長・観光協会等関係団体代表合同会議委員名簿

山里 将雄	名護市	副市長	座長
小川 剛男	国頭村	副村長	
島袋 幸俊	大宜味村	副村長	
金城 紀昭	東村	副村長	
大城 清紀	今帰仁村	副村長	
平良 武康	本部町	副町長	
外間 毅	恩納村	副村長	
岸本 宏和	宜野座村	副村長	
池原 均	金武町	副町長	
名城 政英	伊江村	副村長	
伊礼 清	伊平屋村	副村長	
奥間 守	伊是名村	副村長	

## 【12市町村】

比嘉 克宏	名護市商工観光課	参事兼課長
神山 徳夫	国頭村企画商工観光課	課長
福地 亮	大宜味村企画観光課	課長
宮田 健次	東村企画観光課	課長
我那覇 隆文	今帰仁村経済課	課長
新里 一成	本部町商工観光課	課長
宮平 覚	納村商工観光課	課長
金城 勉	宜野座村観光商工課	課長
安富祖 勸	金武町産業振興課	課長
万寿 祥久	伊江村商工観光課	課長
上江洲 清彦	伊平屋村総合推進室	室長
前田 秀光	伊是名村商工観光課	課長

## 【12市町村関連団体】

比嘉 重史	名護市	公益財団法人名護市観光協会	事務局長
謝花 良竹	〃	羽地ネットワーク	羽地支所長
祖慶 良太	〃	〃	担当
崎濱 秀彰	国頭村	国頭村観光物産株式会社	観光担当
宮城 健隆	大宜味村	NPO 法人おおぎみまるととツーリズム協会	理事長

稲福 元子	〃	〃	事務局長
吉本 淳	東村	NPO 法人東村観光推進協議会	理事長
小田 晃久	〃	〃	事務局長
新城 正巳	今帰仁村	一般社団法人今帰仁村観光協会	会長
又吉 演	〃	〃	事務局長
當山 清博	本部町	一般社団法人本部町観光協会	会長
内間 仁春	恩納村	一般社団法人恩納村観光協会	事務局長
仲間 赴人	宜野座村	一般社団法人宜野座村観光協会	事務局長
奥間 尚登	金武町	一般社団法人金武町観光協会	会長
山川 宗仁	〃	〃	事務局長
古堅 幸一	伊江村	一般社団法人伊江島観光協会	会長
名嘉 律夫	伊平屋村	伊平屋島観光協会	会長
金城 洋子	〃	〃	事務局長
上間 美卓	伊是名村	一般社団法人いぜな島観光協会	事務局長
前田 辰也	〃	〃	事務局担当

【事業所管庁】

木村 栄雄	国土交通省観光庁観光地域振興部観光地域振興課	専門官
浅利 亮	〃	主査
福村 光正	〃	広域調整係 係長
熊谷 英男	内閣府政策統括官（沖縄政策担当）付政策調整担当参事官室	参事官補佐
坂本 康平	内閣府政策統括官（沖縄政策担当）付総括担当参事官室	

【オブザーバー】

小谷 和史	内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室	国際観光調整官
石川 清秀	沖縄県文化観光スポーツ部観光整備課観光資源班	主査